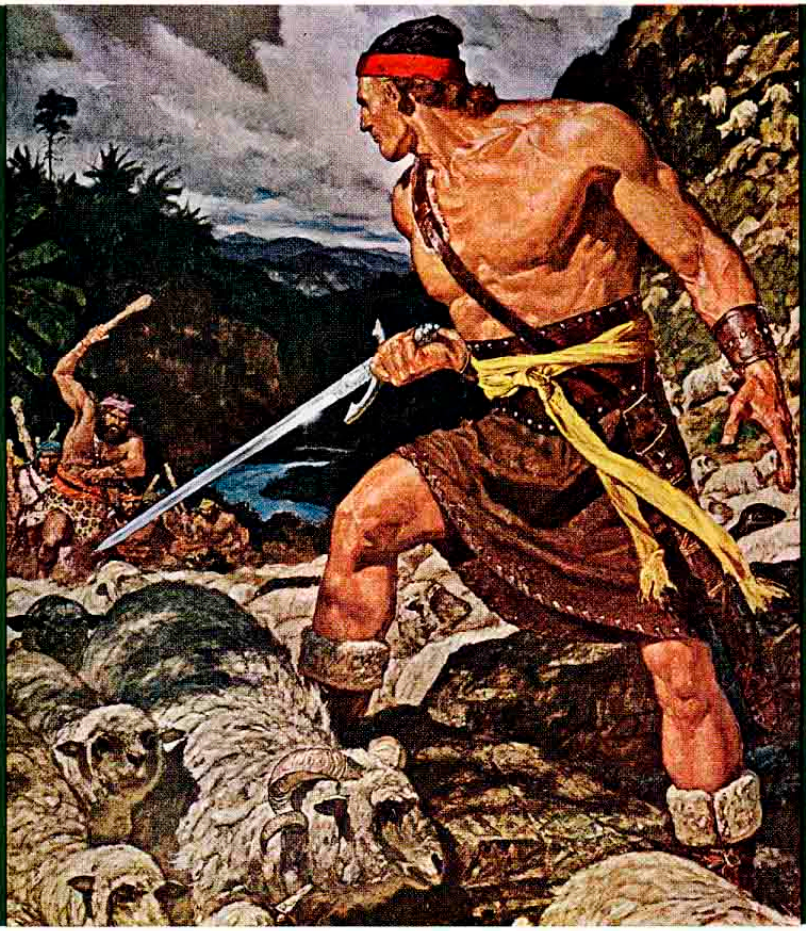
聖徒の道

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第七巻第六号　一九六三年六月一日発行

SEITO-NO-MICHI



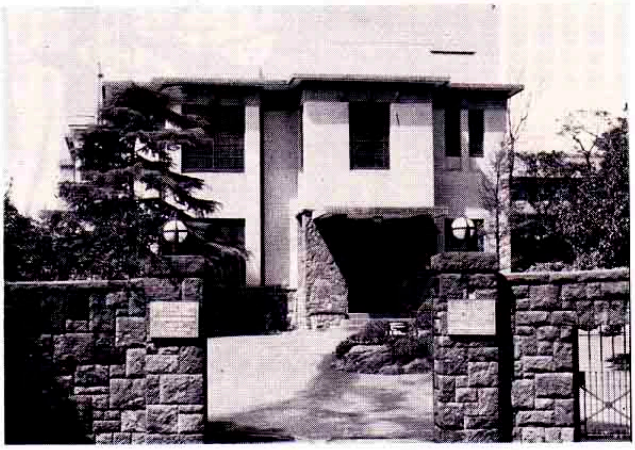
6　1963

末日聖徒イエス・キリスト教会

The Seito no Michi
Volume 7, June 1963, Number 6

In this Issue

A Prophet's Voice: The Way to Peace ..... President David O. McKay···346
President's Message ..... President Dwayne N. Andersen···349
Your Question: What is the Sin against the Holy Ghost
..... President Joseph Fielding Smith···353
Essentials in Church Histry (36) ..... President Joseph Fielding Smith···375
Aaronic Priesthood: Branch Teaching Lesson (for June) 375
Church Articles 376
Genealogy Guide (for July)
Sunday School Guide for J.S.S. (for July)
Sunday School Guide (for July)
Hyms for Excercise (for July)
MIA Leader (for July)
Mission Mother's Message 387
Relief Society Lessons 390
Literature—Visiting Teacher Message
Mission Headquarters News 374
Instructions from Mission clerk.....352
Branch News 372
GOSPEL IN ENGLISH..... Sister Maren Mouritsen···409



東京都港区麻布にある末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

聖徒の道

第七巻
第六号

一九六三年六月号

札幌支部→
記事、支部だより参照

← 南支部神権会

←南支部中東幹夫
兄弟の結婚式
三田秀子
南支部ホール

東京運

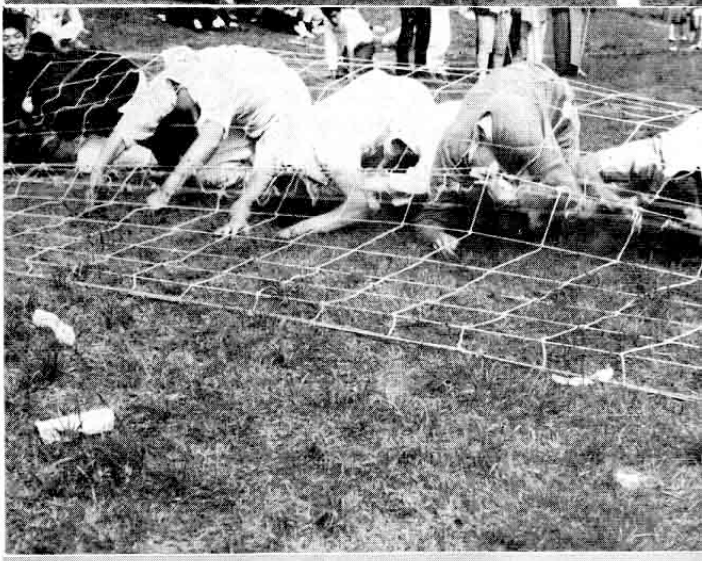
中央地方部
浜地区
動会

↑
勤労奉仕宣教師の活躍が目立った綱ひき

← 障害物競走
記事は次の頁

心は童心に返っても　→
なかなか玉の入らない玉入競技

こんな障害物ナンノソノ、モルモンの若人は負けません　→



東京東支部の仮装行列　↘

めるでありましょう。もしもこの人の努力がとまったなら、その道の進歩もとまるでしょう。

アルバート・E・ボーエン長老はあるとき、霊の進歩は行いなしに得られる、それは修練なしに開花させることができる、また世話をすることなしに実を結ばせることができると考えている人々もあるが、これはもちろんできないことであると言いました。

「人々は今なろうとしているとおりになるにちがいない」ということがよくわからない人が時々あります。どんなに小さいにせよ、今あなたがしようとしている決心は、すべてあなたが将来しようとする決心に重大な意味をもっています。あなたが正しいと思っていることを実行しない度に、あなたは自分自身を弱めて後にそのことをするのが一層むつかしくなります。このように、ある方向と別の方向とへあなたをつれてゆく一つの連鎖反応がつくられます。もしもあなたが終始一貫して教会へ出席し、福音の諸原則を実行するならば、次第にそれをすることがやさしくなって、あなたは「救いと昇栄」の方向へ堅実に進んでゆくのであります。しかしながら、集会へ出席しないようになり始めるか、その他の誡命を守らないことがあるようになると、このようなことをするのも一層容易になります。私たちにとって一日一日は、ある方向へむかって進歩をする大切な階段にもなれば、また別の方向へむかって退歩をする階段にもなります。ヨシュヤはその民にむかってわかれをつげたときに「あなたがたの仕える者をきょう選びなさい」と言いました（ヨシュア記二十四〇十五）。あなたが今日する決定は、明日とそのあとの日にする決定に影響をおよぼすものですから、今日の決定はあなたのする一番大切な決定であります。

日本と沖縄にある本伝道部は、正しい決定をする会員、「終わりまで堪え忍ぶ」会員が入用です。主なる神は、悪の力とたたかうために私たちを独りでお置きになってはいません。主なる神はめぐみを賜うて、善いことをする誘いを以って悪いことをする誘惑の力をなくするように「キリストの光」を人々にお与えになりました。善い力に身をゆだねる人々は、義しい道に導びかれて福音を受け入れる機会を与えられます。教会員の場合には、その上に聖霊の賜によってさらに助けが与えられます。福音の律法と儀式とは、あなたの霊の力をのばす霊の律法でありますが、あなたはその完全を確実にするため、毎日実際に福音にかなった生活をしなくてはなりません。あなたは完全な喜びを得るために、毎日悪にうち勝たなくてはなりません。主なる神の誡命は、あなたが悪にうち勝つ力になります。ぎせいの律法を守ることは利己的な衝動をまかして、あなた自身を一番良い状態に保つ力になります。また「什分の一」の律法を守ることは、物質面の富を拝む傾向からあなたを解放します。純潔の律法を守ることは、あなたが激情をおさえる力になります。「知恵の言葉」を守ることと一ケ月に一日断食する誡命を守ることは、あなたに食欲をおさえる力を与えます。聖餐会に出席する律法を守ることは、あなたが個人的の快楽にうちかつ力となり、また神のことをよくよく考える時間をもつ力となります。

私は教会員の方々がみな、エゼキエルが「義人がもしその義を離れて悪を行ない、悪人のなすもろもろのにくむべきことを行なうならば、生きるであろうか。彼が行ったもろもろの正しい事は覚えられない。彼はその犯したとがと、その犯した罪とのために死ぬ」（エゼキエル書十八〇二十四）と言ったようにならないことを祈ります。

伝道本部書記指示

支部の記録の保管期間

支部の記録は二つのグループに分けられます。それらは歴史的な記録と金銭的な記録です。そして一般的に記録の保管を四つの種類に分けます。

1. 廃　棄　　2. 焼　却　　3. 支部永久保存　　4. 伝道本部へ送附

さて各記録の場合を詳しく書きましよう。

種　　類	期　間	満期の時の処分法
1. 什分の一のレシート（黄色とピンク色）	2　年	焼　却
2. その他金銭関係記録	2　年	焼　却
3. Certificate of Blessing　（ピンク）		廃　棄
4. 〃　Ordination（　〃　）		〃
5. Batlism		〃
6. Monthly Historical Report		支部永久保存
7. Sunday School Report		廃　棄
8. MIA Report		〃
9. Sustaining of Officers (dup)		支部永久保存
10. Budget Estimate		焼　却
11. Audit Report of Examination		〃
12. Tithing Report to P.B.O		〃
13. 〃　from　〃		〃
14. Request for funds		〃
15. Transfer of Branch Accounts		〃
16. Literature and Supplies		廃　棄
17. Branch Inventory		〃
18. Branch Statistical Report		支部永久保存
19. Check Book		焼　却
20. Bank Statement		〃
21. Correspondence（内密の文通を除いて）		廃　棄
22. 〃　（内密の文通）		焼　却
23. MIA 記録簿		伝道本部へ送付
24. Sunday School		〃
25. 神権記録簿		〃
26. Historical Record		〃
27. その他の記録簿（Minute Book）		〃

歴史的な物 → 本部へ　　金銭的な物 → 焼却　　報告等 → 廃棄

注　意　焼却する時は必ず何日に何を誰が焼却したかを証明する用紙（証明書）を二枚作って一枚を支部に一枚を本部に送るようにして下さい。

すぐに支部の記録を整理るすように。

伝道本部書記　ウエイド・W・フィルモア長老

聖霊を瀆す罪とは何か

質疑応答

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

質　問。

「いま私がお聞きしようとしていることは、重要でも何でもないことかも知れませんが、あなたはこの問題について私が知識を得ることのできるところを教えて下さることができると思います。私はいま「マタイ伝 12〇31～33」に言ってあることばについてどう解釈してよいかこまっています。そこには、人の子に対して言い逆らう者はゆるされるであろう、しかし聖霊を瀆すことは赦されないと言ってあります。どのような行為または方法が聖霊を瀆すことになるのでしょうか。この問題についてよい記事を読むことができたら私は或る結論を得ることができると思います」

解　答。

あなたはいまひじょうに重要な質問をなさった。しかし、この問題は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でない人々、またはこれまでわが教会の教えに無関心で来た人々に説いて聞かせてもなかなか解らないかも知れない。いまこの問題をはっきりさせるために、問題になっている聖句を引用するのがよかろう。

「この故に汝らに告ぐ、人のすべての罪と瀆しとは赦されん。されど御霊を瀆すことは赦されじ。誰にても言をもて人の子に逆らう者は赦されん、されど言をもて聖霊に逆らう者は、この世にても後の世にても赦されじ。

「或いは樹をよしとし、果をもよしとせよ。或いは樹をも悪しとし果をも悪しとせよ。樹は果によりて知らるるなり」（マタイ伝十二〇三十一―三十三）。

またバプテスマのヨハネが荒野で道を説いていたとき、ヨハネは人々にむかって、

「われは汝らの悔改のために、水にてバプテスマを施す。されど我より後にきたる者は、我よりも能力あり。われはその靴をとるにもたらず、彼は聖霊と火とにて汝らにバプテスマを施さん」（マタイ伝三〇十一）と言った。

救い主は「聖霊の賜」について御弟子たちにたびたびお話になった。この「聖霊の賜」については聖書とくに新約聖書に度々言ってある。

ニコデモが真理をもとめて救い主をたずねてきたとき、主はニコデモに、

「まことに誠に汝に告ぐ、人は水と霊とによりて生まれずば、神の国に入ること能わず」（ヨハネ伝三〇五）とお言いになった。これはニコデモにとって不思議なことばであったから、どうして人が再び生まれることができるだろうかとたずねた。すると、主はお答えになった。

「まことに誠に汝に告ぐ、人は水と霊とによりて生まれずば、神の国に入ること能わず。肉によりて生まるる者は肉なり、霊により

て生まるる者は霊なり。なんじら新に生まるべしと我がなんじに言いしを怪しむな。風は己が好むところに吹く、汝その声を聞けど、何処より来り何処へ往くを知らず。すべて霊によりて生まるる者もかくの如し」と（ヨハネ伝三〇五―七）。

水によりて生まれることは、もちろん罪を赦すために水に沈めるバプテスマである。この儀式は、神の王国に入るために欠くことのできない儀式である。霊のバプテスマとは神権を保持する者による按手のことである。神権をもっていない者はこの儀式を行なうことを許されない。神権の権能のない者の執り行なう儀式は、神の目から見たらむだな骨折りにすぎぬであろう。同様に聖霊の賜は、神権の権能を公式に授与されている者の按手によって授けられる。ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは、二人にメルケゼデクの神権を授けるためにつかわされたペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人から聖霊の賜を授与する権能を授かった。主は千八百三十年に下したもうた啓示の中で次のようにジョセフ・スミスに仰せになった。

「誠に汝ら皆悔い改め、汝らの罪を赦されんためにことごとくバプテスマを受けよ。然り、汝ら正に水のバプテスマを受けなば、火と聖霊のバプテスマ次で至らん。

「見よ、誠にまことにわれ汝らに告ぐ、これすなわちわが福音なり。而してわれを信仰すべし、もしわれを信仰せずば決して救わる能わざるを憶えよ。

「而して、われわが教会をこの磐の上に建てん。まことに汝らもまたこの磐の上に建てらる。**汝ら絶えずこの磐の上にあるならば、**地獄の門もこれに勝つを得ざるなり。

「汝ら教会の信条と誓約とを記憶してこれを守れ。

「またおよそ信仰を有つ者には、**按手を施して教会に入りたること**を確認せよ。さらば、われ彼らに**聖霊の賜を与うべし**」（教義と聖約三十三〇十一―十五）。

パウロは、エペソに於いて、或る改宗者たちがバプテスマを受けたと主張したとき、何かまちがっていることを悟った。それでバプテスマを受けた後に聖霊を受けたかとたずねた。すると彼らは「いなわれらは聖霊のあることすら聞かず」と答えた。これを聞いてパウロは彼らの受けたバプテスマが有効なものかどうかについて重大な疑問をもったので「されば何によりてバプテスマを受けしか」と問うたところ、彼らは「ヨハネのバプテスマなり」と答えた。

そこでパウロは言った「ヨハネは悔い改めのバプテスマを授けて己れに後れて来るもの（すなわちイエス）を信ずべきことを民に言えるなり」。彼らはこれを聞いて正しい様式でバプテスマを受けた。パウロは彼らが神権者によってバプテスマを受けなかったことを知っていたからである。つづいてパウロが彼らに手を按いて聖霊の賜を授けると、聖霊の能力が彼らに臨んで、彼らは「異言を語り、かつ予言をした」（使徒行伝十九〇一―六参照）。

この賜は、ペテロが「なんじら先ず知れ、聖書の予言は、すべて己がままに釈くべきにあらぬを。予言は人の心より出でしにあらず、人々聖霊に動かされ、神によりて語れるものなればなり」（ペテロ後書一〇二十―二十一）と告げているように昔の予言者がみなもっていたものである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、もしも誠実であるなら、アダムの時代から下ってそのほかの神権時代に至るまでの聖徒に与えられたと同じ導きと神聖な知識とを授けられる資格があるにちがいない。しかしながら、へりくだったこころでいつも神の誠命を守っていなければ、誰もこの賜をもって信仰の力をあらわすことはできない。誰でも、その肉体も精神もともに清く保ち、主なる神に対して忠誠をつくさなければ、聖霊はけがれた幕屋（肉体）に**お宿りにならないし**、またその人をはげましたもうこともない。

救い主が、ユダに裏切られる少し前に、その弟子たちと聖会を開**いて集いたもうたとき**、

「汝らもし我を愛せば我が誠命を守らん。われ父に請わん、父はほかに助け主を与えて永遠に汝らとともにおらしめたもうべし。これは真理の御霊なり。世はこれを受くること能わず。これを見ず、また知らぬによる。なんじらはこれを知る、**彼は汝らとともにおりまた汝らの中にいたもうべければなり**」（ヨハネ伝十四〇十五―十

七）と仰せになった。

また次のように仰せになった。すなわち、

「されどわれまことに汝らに告ぐ、わが去るは汝らの益なり。われ去らずば助け主汝らに来らじ。われゆかばこれを汝らにつかわさん。かれ来らんとき、世をして罪につき、義につき、さばきにつきて、あやまてるを認めしめん。

「罪につきてとは彼らわれを信ぜぬによりてなり。義につきてとは、われ父にゆき汝ら今よりわれを見ぬによりてなり。さばきにつきてとは、この世の君さばかるるによりてなり。

「われなお汝らに告ぐべきことあまたあれど、今汝ら得たえず。

「されど彼すなわち真理の御霊来らんとき、なんじらを導きて真理をことごとく悟らしめん。かれ己より語るにあらず、おおよそ聞くところのことを語り、かつ来らんとすることどもを汝らに示さん

「彼はわが栄光をあらわさん。それはわがものを受けて汝らに示すべければなり」（ヨハネ伝十六〇七―十四）。

世の人々は現在この偉大な賜をもっていない、それは人々が主の道をすて、儀式をすたれさせ、人の造った哲学を教えているからである。

主は真理を知ろうと熱心に求めている誠実なこころの人に、聖霊によって一度顕示を与えたもうにちがいない、しかしその人はこの顕示をくり返して受ける資格をもってはいない。このような啓示（顕示）を受けたらその人は実行すべきである（バプテスマを受けなくてはならない）、バプテスマを受け聖霊の賜を授けられて始めて、人はひきつづき顕示をたまわるよう聖霊に懇請することができるからである。

コルネリオの場合はこのよい例である。ペテロは完全な福音はイスラエルにだけ伝えられるのであって異邦人には伝えるべきでないという、昔からイスラエルにつたわる伝統をかたく守っていた。主なる神がペテロに不思議な示現を見せたもうたので、ペテロはそれ以後福音はユダヤ人はもちろん異邦人のものでもあることを確信したのであった。

われわれは、モロナイの霊感による教えから次のことを知っている。すなわち、

「ごらん、私はあなたたちにすすめたい。あなたたちがこの記録（すなわちモルモン経）を読むことを神が許したもうならば、あなたたちはこの記録を読むときに、アダムが造られてからあなたたちがこの記録を受けるまで、主が世の人々にどれほど憐れみを垂れたもうたかを思い起こして心の中に深く考えてほしい。またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る」（モロナイ書十〇三―五）。

聖霊の賜は、人が義とけんそんなこころで福音に従うとき、願いに応じていつも聖霊の導きを得ることができるほど力ある賜である。いろいろな霊をわきまえる能力と、主のたもう啓示の意味を明らかに理解する能力とはこの人に与えられるにちがいない。つねに聖霊の導きを得て、神の王国の奥義をあらわされることは、まことにすばらしい特権ではないか。人はパウロ、ペテロもしくは昔の予言者の手紙を読むなら、これらの人々が神権をもっており、そのころが聖霊の教えと啓示によって照らされていたことが直ちにわかるにちがいない。イエスがキリストであり、神の予言者が真理を語ったということを人が全身全霊をもって受け入れ、かつ理解することは、まことに聖霊の教えと啓示とによることであり、また聖霊のささやきにもとづくこころの中の証詞によることである。この啓示が与えられた後に、人は真理にそむき真理を否定してよいであろうか。もしそうするなら、それはその人が充分承知の上で、しかも聖霊が与えたもうた真理の知識をもちながらすることであろう。それであるから、その人は自分が偽り者であり、また神の王国の中にあって救いの場所を得る資格のない者であることを証明するであろう。真理から来る証詞は、聖霊の教えによる偉大な証詞であるか

ら、聖霊にそむくことまたは聖霊にさからう罪はけっして赦されることなく罰を受けなくてはならない。

パウロはヘブル人へ次のような警告を書いている。

「ひとたび照らされて天よりの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となり、神のよきことばと来世の力とを味わいて後、堕落する者は更にまた自ら神の子を十字架につけてさらし者とする故に、再びこれを悔い改めにたち返らすること能わざるなり」（ヘブル書六〇四―六）。

ペテロもまた聖霊にそむく罪を犯す人にはけっして赦しがないという証詞をのべている。すなわち、

「かれらもし主なる救主イエス・キリストを知るによりて世のけがれをのがれしのち、またこれにまとわれて敗くるときは、その後のさまは前よりもなお悪しくなるなり。義の道を知りて、その伝えられたる聖なる誡命を去りゆかんよりは、むしろ義の道を知らぬをまさりと。ことわざに、犬おのが吐きたるものに帰り来り、豚身を洗いてまた泥の中にころぶ、といえるはまことにしてよく彼らに当れり」と（ペテロ後書二〇二十―二十二）。

御霊の証詞はひじょうに偉大な証詞であるから、また神の真理の印象と啓示はひじょうに力強く個人にあらわされるのであるから、それを受ける人は忘れることのできない真理の確信を得るのである。従って、ある人がイエス・キリストは肉体に宿りたもうた「神の独り子」であるという知識を受けるほど御霊によってその心を照らされてから、御霊にそむいて主と主の御業に対して争いをするなら、その人は神の力によって受けた光と証詞とにそむいてそうするのである。

それであるから、イエスはこのような人にはけっして赦しがないと仰せになった。聖霊の証詞は、人の受けることのできる証詞のうち最も強い証詞である。

支部役員名簿　その一　阿倍野支部

支部長	上野山　研次郎	大阪府豊中市桜塚之町五ノ六九
第一副支部長	桂　鶴一	大阪市生野区舎利寺町一ノ八一
第二副支部長	小島　敏夫	大阪市東住吉区西今川町
書記	田原　慶三	大阪市阿倍野区阿倍野筋八ノ五四
日曜学校会長	市道　喜八郎	大阪市阿倍野区阪南町西一ノ六〇
MIA会長	泉谷　巌	大阪市阿倍野区阿倍野筋七ノ六二
扶助協会会長	橋本　由紀子	大阪市阿倍野区美章園町二ノ三八
系図委員会会長	小倉　国康	大阪府松原市阿保町二二三

ジョセフ・フィールディング・スミス著

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　36

第三部　オハイオおよびミズーリ時代

第二十一章　十二使徒と「七十人」を選ぶ
――カートランド神殿の献堂
（千八百三十四年――千八百三十六年）

十、「教義と聖約」。　千八百三十五年八月十七日、教会の総大会がカートランドで開かれた。それは教義と啓示に関するいろいろな項目を出版する目的で整理をするために千八百三十四年の九月二十四日に開かれた教会の総大会で任命された委員会の働らきについて考えるためであった。この委員会はジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、シドニー・リグドン、フレデリック・ウイリヤムスの四人から成っていたが、任命された仕事を完了したので、その働らきについて考えるために八月十七日に大会を開くことを要求したのであった。ここで知っておかなくてはならないのは、さきに千八百三十一年に開かれた総大会で議決された啓示の印刷は、千八百三十三年の七月にインデペンデンスで暴徒のために印刷工場が破壊され、同時にそれまでに出きていた印刷された部分もほとんど全部破壊されたためにお流れになっていたことである。この大会を管理したのは当時会長会に属していたオリヴァ・カウドリとシドニー・リグドンであって、予言者ジョセフ・スミスとフレデリック・ジー・ウイリヤムスとはそのときミシガン州へ行っていた。すべての神権定員会は秩序正しくまとまり、トマス・バーディック、ワーレン・パリッシュ、シルヴェスター・スミスの三人が書記に任命された。総大会はいつもの順序通りに進められ、朝の集りには主として按手

聖任と重要な事務の処理が行なわれた。午後にはオリヴァ・カウドリが委員会を代表して「教会の教義と聖約の書」を大会に紹介した。つづいてシドニー・リグドンが、この書に対する賛否を総会の会衆から得るための支持の方法に関して指示を与えた。その後、各評議員会と神権定員会とは別々に支持の挙手を行ない、主なる神のたもうたことばとしてあの書の中にのせるように選ばれた数々の啓示と、会員の信仰に関する教義と聖約とを承認した。「十二使徒」が各自の使命を遂行するために出発をする前にすでに準備しておかれた承認書がこの時会衆の前で朗読された。すなわち、

「教義と聖約の書が真理なることに関する十二使徒の証」

主の誡命の書に関する証人の証。この主の誡命は主がジョセフ・スミス（二代目）によって主の教会に下したもうたのであり、且つ予言者ジョセフはこの目的のために教会員の支持の挙手によって任命されたものである。されば、われらはこれらの誡命は神の霊感によって与えられ、その功徳が一切の人々に及びまた疑いなく真実であると、主がつかわしたもう聖霊によってわれらに証したまえることを、すべての人の世と、すべての陸の上に住む一切の生くる者に進んで証を立てたく思う者である。

主はわれらの助け主なれば、われらこの証を世におくる。また、われら世にこの証を立てる特権を許されるのは誠に父なる神と御子イエス・キリストの恩恵によるものである。われらはこれを格別に喜んで、これが人の子らに功徳を及ぼさんことをたえず主に祈るものである。

トーマス・ビー・マーシュ　デビッド・ダブルュ・パッテン
ブリガム・ヤング　ヒーバー・シー・キンボール
オルソン・ハイド　ウイリヤム・イ・ムレリン
パーレー・ピー・プラット　ルーク・エス・ジョンソン
ウイリヤム・スミス　オルソン・プラット
ジョン・エフ・ボイントン　ライマン・イ・ジョンソン

この総大会の席上で、以上の啓示につけ加えて支持の挙手を受けたものには、この年の始めに長老たちの学校（予言者の塾）で教えられていた「信仰講話」、そのほか「一般政府および法律に関する項目」および「結婚に関する項目」がある。

この「信仰講話」および二つの項目は、支持の挙手を受けたけれども、啓示のように教会員の守らなければならない教義としては受けとられなかった。オリヴァ・カウドリとシドニー・リグドンの二人は会長会の役員として、またこのほかの三人は書記としてこの集会の議事録に署名をした。これらはあの書が印刷されたときその中に公表された。前文には会長会の署名がしてあり、日附は千八百三十五年二月十七日としてあった。

十一、千八百三十五年終わる。　千八百三十五年は、予言者ジョセフ・スミスが「アブラハムの書」を飜訳するために多忙であったうちに暮れて行った。この書には多くの偉大な真理が載っていて、その中にアブラハムが教わった天文学の原理が明らかにされていた。

一方、多くの評議会が開かれて、十二使徒たちは神殿でエンダウメントを受けた後、大管長会とともに、翌年の夏に家族をつれてミズーリへ移るべきことを指示された。長老たちの学校はひきつづき開かれ、有能な教師のもとに文法とヘブライ語とを勉強することが、長老たちの仕事の重要な部分となった。そして長老たちは、今

や完成に近いカートランドの神殿でまもなく開かれる聖会の準備をしていた。このころ久しぶりに平和と落ちつきが一般にめぐまれたので、予言者や聖徒たちは教会の福祉に欠くことのできない多くのことを完成することができた。しかしこの平和も長くつづかなかった。まもなく一つのことが起って平和を台なしにしたが、それは予言者ジョセフ・スミスに対してウィリヤム・スミスがあらわした反逆の精神であって、それがためにウィリヤムは教会内の地位をほとんど失なおうとした。ウィリヤムを相手どって多くの非難が高等評議員会へもち出されたが、ウィリヤムが悔改めた様子をして見せたので許された。

千八百三十五年十一月二十七日、モルモン経の八人の見証者の一人クリスチャン・ホイットマーがミズーリ州クレー郡で亡くなった。彼は当時ミズーリ州における高等評議員会の一員であって、最後まで固い信仰を守っていた。

十二、神殿における受膏（油を注がれること）と祝福。 千八百三十六年の一月と二月には多くの時を費やして度々評議会を開き、神権者のいろいろな組織に見られる空席を満たした。また、ヘブライ語の教師 Dr. Piexotto がその契約を実行していなかったので、代わりに完全なヘブライ語教師である Seixas 教授をやとった。千八百三十六年一月二十一日木曜日、神殿の中の集りの最初の集りが開かれた。この集りは数日の間つづいて開かれ、そのとき教会の忠実な長老たちに、按手による祝福と「受膏」（油を注がれること）とが執り行なわれた。

この最初の集りに大管長会が会合して「ファーザー・ジョセフ・スミス」（ジョセフ・スミス初代—大祝福師）に「受膏」と祝福を行なった。この後ジョセフ・スミス（初代）は、大祝福師として、大管長会の兄弟たちに年令の順に「受膏」と祝福とを行ない、主の「みたま」の啓示したもうままに彼らの上に祝福をほどこし、この祝福を受けた者の一人一人によって多くの予言が発せられた。

十三、示現。 このようにしている間に、天が開かれて予言者ジョセフ・スミスは次のような示現を受けた。

「肉体のままにてか、または肉体を離れてか、私にはわからないが、私は神の住みたもう日の栄の御国とその光栄とを見た。私は日の栄の御国に入る者たちの入る門を見たが、それは回転する火焔の如く、言語に絶する美しさをもっていた。また「父なる神」と御子の座したもう燃えさかる「神の玉座」も見た。また日の栄の御国の美しい大通りを見たが、それは黄金が敷きつめてある様に見えた。私は、先祖なるアダムとアブラハム、またわが父、わが母、さらにずっと前に永眠した兄弟のアルヴィンも見た。そして私は、アルヴィンは主なる神がイスラエルの集合の回復に着手したまわない前にこの世を去り、罪を赦されるためのバプテスマを受けていないのに日の栄の御国に入っているのはどうしたことかと不思議に思った。

このとき主の御声が聞こえて次のように言いたもうた。

「この福音を聞かずにすでにこの世を去りたる者にして、しかもこの世に長く留まりたらば福音を受け入れしならん者はすべて日の栄の神の御国に入るを得べし。また今より後この世を去る者にして、機会ありしならばこころより福音を受けたらん者はすべて日の栄の神の御国に入るを得べし。われはすべての人をその業によりてさばく者なれど、またすべての人をその心の望みによりてもさばく者なればなり」と。

私はまた、満八才にならぬうちにこの世を去ったすべての小児たちが日の栄の神の御国に救われているのを見た」。

このほか多くの驚嘆すべきあらわれをこれらの人々は見た。そして、天の使者たちがこれらの人々に導きとめぐみを施こした。主の御能力はこれらの人々の上に留まり、神殿は神の御栄えが満ち充ちていた。このとき予言者の書き役であったワーレン・パリッシュは天の軍勢を見、またシオンが贖なわれる示現を見た。

この集りにおいて、またこの集りにつづく集りにおいて、種々の評議会の役員およびそれぞれの定員会の管理役員たちは、大祝福師や大管長会が受けたとおなじ「受膏」（油を注がれること）や按手によって祝福を受けた。そして、天の示現により神の栄光と御能力の驚嘆すべきあらわれが彼らの目に開けた。彼らはこれを見て「神と子羊とにホザナ」と声高く叫んだのであった。

十四、聖会。 千八百三十六年三月二十七日（日曜日）カートランドにおいて教会の会員たちが待ちに待っていた希望が実現した。この日教会の会員たちは神殿において聖会を開いたのであった。すでに千八百三十二年、主なる神は主にささげる一つの宮を建てよという命令を聖徒たちにお与えになっていた。このような所は当時地球上にどこにもなかったし、また何世紀という間そのあとが絶えてしまっていたからである。千八百三十三年六月の五日、神殿建築の地に「くわ入れ」の式が行なわれ、隅の首石は翌七月の二十三日にすえられた。ところが当日、ジャクソン郡に住んでいた聖徒たちは、暴徒らの暴力によって各自の家から追い出されたのであった。今や神殿の建築は完成し、貧困のうちに敵の暴力におびやかされつつ営々として築いた末日聖徒の小さな団体の信仰と精励の記念塔が今や現実にあらわれたのである。それはなみの大きさの建物ではない、石造りであって縦八十呎、横六十呎、広場まで五十呎、地上百十呎の塔をそなえた建物である。千八百三十六年三月の二十七日は、厳粛かつ重大な日であった。定時よりもずっと前に、神殿は熱望している関係者たちでいっぱいになり、場所がないために入るのをことわられた人々が多勢あった。午前九時、シドニー・リグドン副管長が開会を宣し、満堂水をうったような静けさの中に詩篇第九十六章と第二十四章とを朗読した。次に聖歌隊が「やがて、とばりは二つに裂く」を唱ったが、この宣言はその後当日の会衆が実際に見るよりも早く事実となってあらわれた。祈りがささげられ、もう一つ讃美歌が唱われてから、その時に適切な話が述べられ、次に教会のいろいろな役員が別々に挙手による支持を受けた。そして、この間に時々讃美歌が唱われた。

十五、献堂の祈り。 さきに啓示によって示されていた献堂の祈り（教義と聖約第百九章）がささげされ、ここにおいて建物はまさに主に献堂されたのである（註。この儀式は最初の集りに入れなかった会衆のためにくり返して行なわれた）。この祈りにつづいて会衆はこの日のために書かれていた讃美歌「ホザナ」（主の御霊は燃え）を唱い「ホザナ、ホザナ主と御子に」と叫び「アーメン、アーメン、アーメン」の句を以って結んだ。この日、多くの天使がその場に臨み、聖霊は大風のひびきのようなひびきを以って満堂に満ちて会衆に留まった。このとき何事ならんと走り出た近隣の人々は不思議な物音を聞き、燦然たる光が神殿の上に留まるのを見た。これを以て主がこの建物を嘉納したもうていたことがわかる。

十五、エンダウメントを授ける。 この神殿が主に献堂されると

すぐに長老たちのための儀式が始められた。洗足の儀式（予言者のことばによれば、教会の幹部職員のためにのみ行なわれる）が幹部定員会のために執り行なわれ、そのほかいろいろの儀式が行なわれた。これらの集りにおいて、数人の兄弟に救い主があらわれたまい、ほかの人々には天使が導きとめぐみを施こした。まことにこの日は、聖徒たちにとってはペンテコステ（聖霊降臨の日）であった（使徒行伝第二章参照）。

十六、モーセ、エライヤス、エライジャの三人来る。 千八百三十六年四月三日（日曜日）にカートランドの神殿で開かれた聖餐会のとき、聖餐をくばり終わったジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人が教壇へしりぞくと仕切りの幕がおろされ、二人は共にひざまずいて頭を垂れ沈黙のうちに祈りをささげた。

註。当時神殿の中には四つの幕がぶっちがいにしつらえてあり、これをおろすと一つの集会室を四つに仕切ることができるようになっていた。

この祈りを終えて立ちあがったとき、主が教壇の胸欄に立って二人にあらわれたまい、二人を祝してその建物を主の御名によって嘉納したもうた。この示現が閉じられると、天が再び二人に開けて、モーセが二人の前にあらわれイスラエル人集合の鍵をわたした。次にアブラハムの時代に住んでいたエライヤスがあらわれ、アブラハムの福音の神権時代の鍵をわたした。この示現が閉じられると、また別の栄光ある示現が突如二人の前に開け、エライジャが二人の前にあらわれて、かってマラキの言った予言を成就して、先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わしめる鍵を二人にわたした。この、先祖の心に子らを思わせ子らの心に先祖を思わせることは、主の大いなるおそるべき日の来る前に為されねばならぬことであった（これらの示現については「教義と聖約」第十章を参照のこと）。

十七、長老たち福音を教える準備を終わる。 さきにフィッシング・リヴァーで与えられた啓示（教義と聖約第百五章）の中で、主は長老たちに向い、長老たちが教会を立て主の葡萄園を「刈り込む」ために出て行く充分な準備ができる前に、長老たちはいと高きところから権能を授けられなくてはならないとお言いになった。ところが、今や長老たちはこのエンダウメントをすでに授けられ、いろいろな神権時代の鍵はそれぞれすでに回復されているのであるから、長老たちが万国の民の中で導きと教えを授ける準備はまったく成った。これらの祝福を受けた後、長老たちは福音を教えるために出て行き始め、全地に広く宣べ伝え、神のことばを以前に経験したことのないほどの力強さを以って説き聞かせた。そして多くの人々が長老たちの証詞を受け入れて主の教会の会員となった。

第二十二章　クレー郡の人々聖徒を受け入れず
——背教と悲しみ
（千八百三十六年——千八百三十七年）

一、ダンクリン知事の恥ずべき行動。 ミズーリ州の知事ダニエル・ダンクリンは、ジャクソン郡で聖徒と土地の人々との間に騒ぎが起こったとき、最初は進んで法を執行する名誉ある観念をいくらか示したが、後になると正義に反して強い方へ味方をする精神をあらわすようになった。これは多くの政治家たちに共通している特性である。千八百三十六年七月八日附でウィリヤム・ダブルュ・フェ

ルプスに送った書簡の中で、彼はおくびょうにも、ジャクソン郡で聖徒たちが暴徒におそわれ結局ジャクソン郡から追い払われるに至ったのは、聖徒ら自身にあやまちがあったからである、土地の人々は何も理由なしに聖徒らに反対して結束することはなかったであろう、後になって聖徒らを見すてた人々も始めは好意をよせていたのだとほのめかした。この結論が正しくても正しくなくても、聖徒たちは自分たちは悪くない立派な者であるということを敵になっとくさせなくてはならないと主張した。彼はさらにつづけて「もし君らにこれができなければ、私の言うことができるのは、この共和国では民の声は神の声であるということばだけである」と書いた。以上がこの独立国家の知事が、贖い主を信ずる信仰のために家から追い出され敵にうち叩かれた罪なき人々に与えたけいべつすべき回答であった。

二、クレー郡の人々聖徒を受け入れず。 流浪の状態に在った聖徒たちがジャクソン郡から追い出されたとき、彼らは北方へミズーリ河をわたったすぐそばのクレー郡に避けどころを見出した。この土地の人々はよその人々を心よくもてなしてくれたので親切な待遇を受けたのであった。聖徒たちは、前に自分たちがいた家へまた戻って行けるとこころから思っていたので、クレー郡にいつまでもいるつもりは少しもなかった。しかし、補償を受けるあらゆる手段がつきはて、アメリカ合衆国の大統領へ訴えてもだめであるとわかったとき、聖徒たちは土地を買って永住する準備をし始めた。時がたつにつれて、聖徒たちがぞくぞくクレー郡へ集まってくる様子が見えるようになるとクレー郡の人々はびっくりした。ジャクソン郡から来た人々は、聖徒たちがその新しい家庭でおだやかに自分たちのことだけをかまっていてもたえず彼らをおびやかしていたが、悪いことは悪いことを生むので、これらの暴徒たちのこころに深く根ざした憎悪はいつまでもつづいた。ついにクレー郡の人々は、彼らにとっていつまでもその評判を傷つけることであるが、悪いことをしても、彼らの真中に「モルモン」たちに避難所を与えることによって、直面していると感じている危険からこれかぎりのがれようと決心した。このとき南方には威嚇している勢力が存在し、また暴徒らが北に当たる郡の住民の多くと合同しているために憎悪が増していることによって争いの危険があったことはもちろんであった。しかしながら、このクレー郡の人々はできることならおだやかな方法で聖徒たちを追い出す方をえらんだ。千八百三十六年の六月二十九日この好ましくない流浪の民（モルモン教徒）が全く他と関係なく存在し得るほかの所へ移転してもらいたいとおだやかにたのむ目的で共同戦線を張って人民大会が開かれた。そのためには、ウィスコンシンの新しい地方が適当な場所であろうという提案が出された。そして、当時彼らにわかっていた状況の報告と、彼らの要求を具体化した決議とが承認された。彼らは逃れてきたモルモン教徒を受け入れた千八百三十三年に示した盛んな歓待と親切とに聖徒たちの注意をよび起こすことを忘れなかった。そして、もしもモルモン教徒がもっと快適な場所へ平和に去っていってもらいたいという提案をことわるならば、モルモン教徒は「一点の感謝の念もないのだ」という考えを聖徒たちのこころに印象させるように努力した。それにもかかわらず、彼らは「われわれはモルモン教徒を力づくで追い出す最少の権利すらもっていないと主張する者ではなくて」、もしもモルモン教徒が出て行かなければ「それが行なわれるときに滅亡と

悲哀と荒廃とを生ずる」内乱まで確かに行くにちがいないことを率直に認めていた。

何故にモルモン教徒が市民の多くにとって「最も深い憎悪のまと」になったかという理由のうち、彼らの請願書の中に申し立ててあるものを挙げると次の通りである。

「彼らモルモン教徒は東部人であってその気質、習慣、風習、言葉づかいさえ、われらのものと根本的にちがっている。その上彼らは奴隷をもたぬ人々であって奴隷制度に反対である。このことたるや、わが国において奴隷廃止論がそのゆがめられた物すごい形相を呈しているこの特殊な時期において、奴隷制度を許してこれを保護している地方の社会に深いかつ永続的の偏見を起こさせることは当然予想されるところである。

これらすべてに加うるに、モルモン教徒は今でもそうであるが、インディヤンは神の選民の一部であってついに彼らと共にこの地を所有することが天の命によってきまっていると教壇からさえ公言して、わが辺境におけるインディヤンとたえず交通をつづけてきている。これが彼らの非難される理由である。

われわれは以上述べたことが絶対に正しいと言明するものではないが、正しい正しくないはさておき、その影響がすでにわれわれの社会を強く刺戟していることは事実である。今よりも世の中が平静であった時には、このような笑うべき意見は「頭にきた狂信」の結果であると見なすこともできたであろうが、現在この辺境の地においてわれわれが無防備の状態にあること、またフロリダ州やその他南部の諸州においてわれら同胞の間に流血の惨事があったことなどの事実よりすれば、すべてのことは、われわれ市民の一部の者に、平静な時代であれば一笑に附することのできる意見を、驚愕でないまでも恐怖の念をもって受けとらせる方向へむいているのである。

以上述べたこと以外の多くのこともみな一団となってモルモン教徒に対する偏見をもたせる原因になっている。而して、われわれは一触即発の状態におかれている敵がい心が、どの国においても最大の悪である内乱を勃発せしめてあらゆる恐怖と荒廃の底に社会を陥し入れんことを深くおそれるものである」。

以上述べられたような実際と空想とが混ざった「悪事」のためにモルモン教徒はほかへ再び移住しなければならなかった。それはモルモン教徒のいることが彼らにとって不愉快であったからである。

これら愚かな市民たちは、彼らにとって最大の利益と思った通りを行って、福音と福音を宣べ伝えた民とを共に捨て去ったのであった。

支部の兄弟愛

新潟

「喜ぶ者と共によろこび、泣く者と共になけ」四月十五日、新潟支部の信仰の御一家、西山雅子姉妹の家がお気の毒にも類焼し、殆ど何を取り出すひまもなく、無一物になってしまわれ、特に雅子姉妹はお父さん亡き後、永い間洋裁によって一家五人を支えて来られていたのですが、その生活の土台であるミシンその他一切の道具迄すっかり失ってしまわれ、明日の働らきも、生活も出来ない状態に陥ってしまわれたことは、誠に何とお慰めしてよいかわからず心から御同情申上げる次第であります。只御家族の方が一人も怪我も火傷もされなかった事は何よりの仕合せで、神様が信仰厚い御一家をお守り下さったことに心から共に感謝せずには居られないのであります。尚この信仰御一家の突然の御不幸に対し、新潟支部の宣教師及び松川支部長始め兄弟姉妹が一体となって、如何に御一家を援け奉仕したかは、誠に涙ぐましいばかりで、誠にこの地上に於ける、唯一の神の王国であることが、その深い兄弟愛の中にはっきりと見られるのであります。この涙ぐましい現場の状況は、おのづから人目を惹き、新聞にも写真入りで報道されたのであります。私たち主によって結ばれている者はこのような事故に遭遇した時に、その愛のきづなが如何に強いか、又如何に恵まれているかをしみじみと感ずる次第であります。

又西山姉妹が如何に強い信仰生活をして居られたかもこの事故によって、はっきりと知らされたわけであります。

明日の生活もわからない時に焼け残ったモルモン経の金文字に感激と感謝の涙を流して居られる姉妹こそ、正に〝まず神の国と神の義とを求められる聖徒〟でありましょう。すべてを知り給う天父は西山姉妹御一家の為に明日の用意をして居られます。

西山姉妹の御一家は今新潟支部会員の暖い精神的物質的あらゆる援けによって強く立上がろうとして居られますが、何しろ無一物になってしまわれたのですから、これからの生活も容易でなかろうとお察しされるのであります。

遠隔の地にある兄弟姉妹も、この信仰御一家の再起に少しでもお力添え下されば何よりの幸と存じ皆様の御協力をお願い致す次第であります。

西山姉妹御一家の上に特別な主の祝福がありますように、そしてこの試錬によって一段と証を強められた信仰の御一家が以前にも増して繁栄されますように心からお祈り致す次第であります。

渡部

神の愛を知って

西山雅子（新潟支部）

四月十五日の夕方、隣りの家からの出火で私の家は、まるで夢の様に、跡方もなく燃え尽くしてしまいました。

急を聞いて駆けつけて下さった宣教師や、兄弟姉妹、松川支部長、又食事や衣類の心配までして下さいました兄弟姉妹、又会員の御家族に深く感謝しております。

又遠くの支部で、心配して下さった兄弟姉妹のある事を知り大きな励ましとなりました。家族一同傷一つ負わないで居られた事にも、感謝致しております。翌日焼跡整理に宣教師は朝の五時頃から行って下さいました。

私の家は、布団の切はしも、本の一冊も残さないで後方附けも簡単な位に焼けてしまいました。

その中で、私は教会の本の一冊でも…古い手紙の一片でも…残っていないかと焼跡を堀返しました。

聖書の数頁、教義と聖約の数頁が焼け残っておりました。

宣教師が一生懸命になってさがして下さっていた時、一冊のモルモン経が焼けてはいましたが原型そのままに、しかも「モルモン経」の金文字をくっきりと浮き出しておりました。グリフィス長老も他の人もその美しさに、驚き、「不思議ですね、これは大切にしておいた方がいいですね、神の力です」と顔を輝かしておりました。

全てのものが、何が何か判らなくなっているのに、モルモン経だけが残っていたのでしょうか？　神の力以外何と云えるでしょうか、私は、モルモンとして、この様な経験の出来ました事を、嬉しく思います。

モルモン経だけが残っていた

この美しい神の奇蹟に近いモルモン経を見た人は、ごくわずかでした。そして今は、私の手許にありません。そこにも何か不思議なものを感じました。

神様は、私にもモルモン経が真の書物である事を示される為に、私の証詞を、より深いものにする為に、私の家を焼かれたのです。

神は、目的があったから、私の家にこの様な災難をお与えになられたのだと信じます。私は、今筆でも、口でも表わす事の出来ない位の感謝を兄弟姉妹、宣教師に感じております。神によって結ばれた強い深い愛をはっきりと知る事が出来ました。

私はこの災難によって多くの恵みを受けました。第一に、この様な災難をお与え下さる程神様が私を愛していて下さったということです。モルモン経が真の神の書物である事をはっきりと知る事が出来た事、モルモンの愛が楽しい時でも、苦しい時にも、苦しい時にも離れる事のない愛である事を知り得た事、それらは全て私にとって神の大きな恵みでした。

地に積んだ私の宝は、一しゅんの中に失われてしまいました。しかし神の義を求めて天に積みたいと努力して得たものは、あの災難でも失われる事なく、更に多くのものを得る事が出来ました。

神の義を求めなさい。それは失われる事はないでしょう。

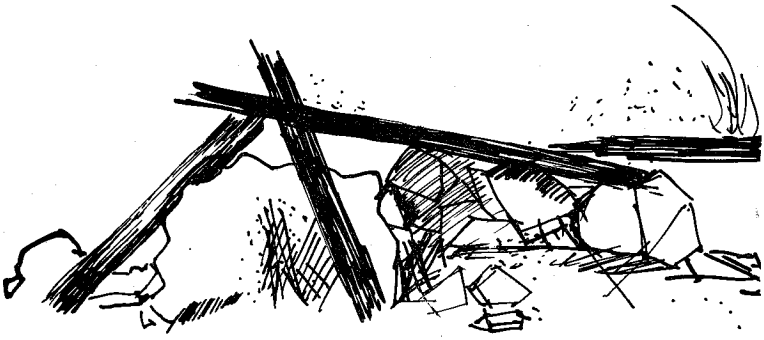
私は、この言葉をはっきりと真実であると判っております。

私は、神が私を特別に愛され数々の災難をお与え下さった事を感謝しております。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、神の真の予言者ジョセフ・スミスによって回復された真実の神の教会であるとはっきり判っております。又、神の福音に従う事によって、永遠の生命を得、神と共に生活できる光栄に与る事の出来る事を証し致します。

神は、真実私達と共にあられ、私達に良き事をお与え下さると確信しております。

私は、宣教師会員又その家族にも心から感謝致し、これからも、せまくとも、苦しくとも主の道に従って行きたいと願い努力致します。神の恵みに感謝しつつ。



現場検証始まる

新潟の火事　米青年も焼け跡整理

昨夜の十五日夕刻新潟市西堀通六番町、八戸、大和屋家具店ほか、八戸、大和屋工場や倉庫物置など計一五〇〇坪方面を全焼した火災について、新潟中央署では、午後七時過ぎから立ち入り禁止のナワを張って現場を保存し、早朝から実況捜査を指揮して検証を行ない、原因を調べている。

まだ詳しくはまだ火元やわかっていないが、倉庫物置や高橋米穀商店の倉庫内の階下の使っていた日ノ出製菓工業社が、工場のすぐ隣に火を使った高橋米穀商店のものと思われるバナナのむし蒸のいずれかが火元という見方が強い。つまり、工場という見方は、最初に火災を発見した工場の二階に住む倉庫物置商高橋米穀さんの娘さんが、パチパチという音に気づいて下におりてみたところ工場一帯が火の海だったのを見ていることまたその二、三分位の人も工場の窓ガラスから火の粉が出ているのを見ていることからだが、いずれにせよ工場や住い、それに倉庫に使っていた高橋米穀商店の倉庫から火が出たことは間違いないようだ。

一方一夜明けた火災現場は黒焼けになって残った柱やこわれ落ちた高橋ガラスなどが足の踏み場もない状態。しかしほとんどの被災者は一睡もしなかったため目を充血させ疲れきった表情。おまけに着の身着のまま、焼け出されただけに悲痛な面持ちだ。買ったばかりのランドセルや教科書を抱いてベソをかいている新入学児童もいく人かいた。

火の気はなかった

高橋米穀商店の話　倉庫の階下には日ノ出製菓工業社の工場に使っていたが、この工場はすでに昨年十一月から休業してカマは全然火をたいていない。またバナナの蒸し釜は電気を使って蒸煮する施設はあったが、それも何年も前から使っていないので火の気がなかったはずだ。

(上)焼跡整理を手伝うグリフンスさん　(下)また建のあがっている中で見舞客

四月十五日の夕方

一日の業務もすみ、五時の家族集会の約束の為、教会にいそぐ、しかし約束の人は見えない！。とてもさびしい！　その時、ステレット長老、アシュビ長老、軽装で玄関をとびだす姿を見た、ただ事でない事に気が付く、その時大声で一人が西山姉妹の家が焼失した旨を知らす。夢中で外へ走りでた。通りがかりの〝バイク〟にとび乗り火事現場にいそぐ、夕方の事とてヤジ馬連中でゴッタ返している、その時すでに西山姉妹の家は焼け落ちていた。

中学生である西山れい子姉妹は一人茫然と立っていた。私は水し吹をあびつつ、れい子姉妹の許へと行く、れい子姉妹は〝ワー〟と泣きつく、安全地帯に二人で避難する。

グリフィス長老、ステレット長老、アシュビ長老、ネェィシー長老は家族の安否を案じ四方八方を駈け廻る、ある時は近所の屋根に上り又小さき露地へと危険をおかしつつも家族を求める姿を何度となく見た。女性である私は火災の恐ろしさを見ながら体の自由を失い、れい子姉妹を抱える丈で精一ぱいであった。それから数分後家族全員が無事なる事を長老より聞かされる。思わず一人祈った神様に対し家族全員の無事なる事を心より感謝した。長老の命令に依り私はれい子姉妹を抱え乍ら教会へといそぐ、れい子姉妹は住み馴れし家の焼失の為心はみだれ勝ちである。

今考へても解からない。どの様にして教会へ歩いて来たか、私は自分自身の事の様に苦しい思いをした。教会の静かなる畳の部屋に二人で入る、すぐれい子姉妹と共に〝ひざまづき〟家族の無事と四人の長老の方々の肉親にも及ばぬ救いの手に対して心より感謝する。れい子姉妹も次第に冷静さを取りもどした。私は思わず聖書を開き読んでいた。長老達も相続いて帰る、家族全員が集る。

第一に家族の人々の心の落付きを取返す事に心がける。その間一時間の時がたつ、常に長老達も同席してくれた事を喜ぶ。七時近く松川支部長、長老の指導のもとで行動をする。私は家族の夕飯の準備の責任を与えられた、渡辺姉妹と共に買物に走る、早くそして又栄養と経済を考え仕度に取りかかる。小黒、田部、渡辺、佐藤姉妹は若さできびきびと動いてくれる。うれしい。本当にうれしい。八時食事の用意は完了家族の方々に食事をしていただく、小学生のあやるちゃんはゆで玉子をとても〝オイシイ〟そうな顔をして食べてる、火災の恐ろしさもすっかりと忘れまるで自分一人を中心にしての食事である。長老、会員は誰一人食事をしてない、それぞれの責任の仕事をしている。見る見る内に衣類の山となる。ただただ会員一人一人に感謝のみにつきる。

十時すぎやっと片付く、それぞれの寝屋に西山一家はわかれわかれにゆく、雅子、れい子両姉妹は我が家へ、十二時れい子姉妹は精神的「ショック」の疲れの為ぐっすりとねむりについている。信仰に強い雅子姉妹は常に人々に感謝しこれからの生活の不安がおそいかかり一晩中ねむれぬ様子、時々起きて一人祈っている姿を私はこの目で見た。すぐ隣りに休んでたからである。私も共に一睡もできない。西山一家の苦しみがまるで自分の苦しみの様であった。

夜は明けた。五時すぐそれぞれ身仕度をして焼あとへ行く、長老四人、五十嵐、佐藤兄弟は焼けあとを見守っていた。

八時近く会員は一人一人多くなるばかり数軒の焼けた家より一番早く取片付けも終る。長老四人は終始すべての点で模範ある行動に対して世間の人々はもとより我々までが頭が下った。新聞社の方も長老たちの行動その他に驚歎するばかりであった。この行いが夕刊に大きく報道された、一日働いた疲れもすっかりと忘れてしまった。私は両親に雅子姉妹と共にしばらく同居する事を依頼した、両親は心よく受け入れてくれ家族の一員として数日間を過した。

支部長、長老、そして会員の方々のあたたかき協力により、一瞬間にも安住を得る事も出来本部よりのお助もあり西山姉妹も以前にも増して家計を助け一日も早く立直られる日の近からん事を心よりお祈り致しております。すでに社会人である西山兄弟が私と共に家族集会を受け災難の苦しみの内に以前より以上に証詞を強め、先日バプテスマを受け会員となりました事を大変うれしく思います。

最後に伝道部長の御慈悲あるすべてを私個人として敬意を表わすと共にこれからも会員を御指導下さいます様お願い致します。一致協力、隣人を愛し、信仰を強めつつ、末日聖徒イエス・キリスト教会発展の為小さき力となりたいと考えております。

新潟支部　須貝志う子姉妹

科学

■上野道夫■

もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす（詩編一九篇一節）小学生五年の男子が将来なりたい職業のトップが科学者、技術者であったのをちょっと前、新聞で読んだことがあるがそのときは全く驚いた。ロケット、人工衛星の打上げ、厚子力発電、電子頭脳の記事や番組が少年の夢を刺激するためであろうか。私の少年時代には大得、政治家、医者必望が断然多く、科学者になろうと思う人が一人もいなかったことを考え合わせると全く世の中も変ったものだとつくづく隔世の感を強めた。読者の中にも科学者、技術者志願の人や科学時代の現在、科学に興味をもっている人が沢山おることと思う。そういう方々のために私が今まで科学について考えたことを少し書いてみよう。

私は大学で電子工学を勉強し電子に利用する会社に技術者として生活するうちに科学と信仰とは完全に調和することを悟った。よく会社の人に「科学を勉強してよく宗教にはいっていられるなあー。矛盾を感じて難れたいと思うことはないのかね」と言はれることがあるが、そのたびごとに私は次のように答えている。「科学をやればやるほどキリストの教えが正しいことがわかり、福の全能なることの確信を強める」と。岩波新書「科学と宗教の闘争史」にみられる如く科学と信仰が衝突するのは大きな間違いで、科学の真の意義はキリストの教えを知りこの世以外の大いなる方である神の意志を悟って始めて正しく、広く理解されるのである。科学はまず実験によって帰納法的に自然法則を見出し。次に自然を支配する理解体系を導き、更にはその理論を応用して種々の便利な機器を発明する。その理論は非常に単純明快で統一性と調和美に満ち満ちている。夜空にきらめく何億光年もの遠い遠い美しい星を眺めていると宇宙の神秘さと壮厳さに打たれ、宇宙の中心であるコロブに思いが馳せる。原子の世界で陽子の周囲を電子が規則正しく廻っておるように太陽の周囲を惑星が一定のきまった周期、速度でまわっており、地球と火星が一番近くなったり、日食の全環食はどこで何日の何時何分何秒から何分何秒間観測されることは科学的な理論より計算で求められる。このようにものすごく大きな宇宙から極少の世界原子の動きに至るまで一貫してみられる秩序と調和が偶然に、でたらめにできるはずはない、どうしてもある法則にもとずいて組織されたと考えざるを得ないのである。「およそ、すべての王国には皆一つの律法を与えらる神は昔より万物に一つの律法を与え、この律法により万物は時と期に随い運行を止めざるなり。而してこの運行の道は定りて動かず、正に天地の道にして地とすべての遊星に通ずるものなり。而して地と星とはまたその時と期に於て、分と時と日と週と月と年とに於

思うことども

て相互に光を与えうるなり」（教義と聖約八八章三八、四二〜四四）の聖句はまことにこの事を意味するのではなかろうか。返って近代科学は神を否定するものではなく、全能なる神は存在するという証を我々に伝えておくるのではないか。全く科学とは神の造り給うた自然の法則を破究し発見することであり、技術とはこの法則を人類の幸福のために利用することである。残念ながら技術は悪用れたために、上は戦争による被害が大きいから下は隣りのラジオがうるさいことまで沢山の副作用を生じているが、それらは勿論常識と良心によってとり除かれるもので本質的なものではない。これらのへい害は科学による人間の進歩を過大視し、それの運用を神のため、人間のためにという大原則を忘れたからではなかろうか。確に今日科学の進歩によって世界が大きく変えられ我々は精神的、物質的に大きな影響を受けている。しかしこのような科学の進歩を人間たちはなんら誇ることはできないのである。なぜならこれらを作っは理論や原理はすべて神が創り給うたものばかりで、人間はただそれを利用しているのみなのである。しかもその利用も神が下し給うキリストの御霊やインスピレーションによってのみ悟り知ることができるのである。

最近オパーリンなどの「生命の創造」がかなり生物学界をにぎわしているようであるが、これはまことに不可能事である。人間は高められて完全な人—神になって始めてものを創造したりすることができるのであって、現在のような不完全な状態ではものを新しく創ったり変えたりすることが不可能であることが、当然の公理であるからだ。

人間の手によって作られた原子兵器などという怪物がわがもの顔にいばり、人間をおどかし続けることは神を忘れ科学を過信した人間のおごり高ぶった気持から必然的に起ってきたものである。人間は学問があると自分は賢いと思って神の訓戒に耳をかさず、自分独りで解ると思って神の訓戒をうち捨てるから、その智恵は愚であって何の益にもならず、かれらはついに亡びるのである。しかし人間がもしも神の訓戒に従うならば学問のあるのも善いことである。（ニーファイ第二書九〇二八）このような現代にあって科学が神の王国建設と人間の福祉のためにのみ利用されるべきであることを我々が声を大にして叫ばねばならない。また科学の一分野を勉強することによって、神の英智がいかなのものであるか少しでも知ることができ、神は確かに全能であって、秩序正しくこの宇宙を、この地球を組織なされたという証を更に強めることができることを深く神と科学者に感謝したい。

阿倍野支部

五月三日、日曜学校主催のもとに、家族と会員との親睦をかねて、バスツアーを行ないました。幸いお天気も良く、さわやかな風と、緑の木々の中を、岸和田城、新和歌の浦、和歌山城のコースを廻りました。バスは定員七十名のところへ七十三名乗車という超満員で、可愛いい子供からお母さん方に至るまで、なごやかな雰囲気で目的地に到着。待ちに待った昼食は、造るのに十五年もかけられた美しい温山荘の庭園でいただきました。食後、ゲームやダンスに興じ、お母さん方もフォークダンスは何年かぶりとのことで初めは、ぎこちなく踊っていましたが、帰り際には「これからはM・I・Aにも出席しようかしら」という程の大へんな上達ぶりで、傍で見ていた他の行楽客もあまりの楽しさに、一緒に輪に入り踊るという愉快な一日を過ごしました。

日曜学校役員は次の通りです。

管理会長	市道喜八郎
第一副会長	角山照雄
第二副会長	肥後深司
書記	福本由美
教師	桂鶴一
	小島敏夫
	上野山恵美子
	酒井良子
	田中美千子
	横山和子
子供日曜学校	
責任者	久住明子
書記	平良栄子
数師	尾立久美子
	尾立越子
	松浦万亀子
	市道恵子

支部では去る三月に会員たちの手によってホールが改造され、いくらか広くなりました。分級はそのホールを三つに仕切って行なっていますが、薄いカーテンが壁がわりですので、各クラスはなるべく小さな声でレッスンする努力しています。が、つい熱が入ると大きな声になってしまう時があります。復活祭の日にも、教師が話そうと準備してきたところを、隣のクラスの教師が偶然同じところを先にレッスンしているのがはっきり聞こえてきましたので「皆さん、しばらく隣のクラスのレッスンを聞きましょうか」とカーテン越に耳を傾ける一幕もありました。しかし改造前よりも各自クラスのレッスンに身を入れる様努力していますので、ほとんど気にならなくなったこの頃です。

西宮支部

新緑の美しい頃となりました。

真近に六甲連山を眺め、石川の水量もようやく増して、これだけは他の支部にも劣らないと当支部が誇りとする素晴しい環境、静かなたたずまいですが、今が一番良い季節と云えましょう。開け放されたどの部屋もほのかな花の香りがただよい、安息日ともなれば、朝から聞こえる讃美歌の調べに、あくせくと過ごした一週間の疲れもいつしか忘れて心に安らぎを覚える私たちの教会です。

（復活祭）

四月十四日聖餐式の後で扶助協会の方々が、簡単な食事の仕度をして下さいました。メニューはドライカレーにリンゴ、そして復活祭にちなんで美しいゆで玉子が付いていま

した。Happy Easter と書かれた色とりどりの玉子と真赤なリンゴを手に思い思いに、芝生に坐して楽しいひとときを過ごしました。

（音楽祭）

四月十八日MIAで計画された特別のプログラムは豊島姉妹の素晴しい独唱に始まり、兄弟姉妹たちの十八番が、次々と紹介されました。ギター、マンドリン、ハーモニカ等の独奏に讃美歌の合唱、有島姉妹の日本舞踊等が入り最後にはオペラ迄飛び出して、とても素人とは思えない位、充実した演出を楽しむ事が出来ました。そして五年前の当支部ではとうてい、想像もつかない素晴しい出来ばえに、そのめざましい進歩の路をかえり見て、しばし感慨にふけりました。

札幌支部

四月十四日教会堂建築資金獲得のためのショーが開かれた。企画・出演まですべて宣教師によってなされ題して「The Old West」「いにしえの西部」とでもいいましょうか、西部の荒野の絵をバックに三・四人のグループがウエスタンを聞かせてくれました。舞台上の長老たちは、故郷をしのんでいるかのようでした。北海道四支部の宣教師の総出演で、約二時間カーボーイスタイルのいでたちもちょっぴりユーモラスに、無言のジョークなど「芸術に国境はない」といわれるとおり、市公民館につめかけた日本人の観客を楽しませてくれました。

四月二十九日天皇誕生日の休日に札幌支部恒例のピクニックが計画されました。四・五年来の茨戸をやめて近くの円山公園に登ることにしました。集合時間に雨が降り出し、やむなく会堂でゲームを楽しみました。中学・高校・大学生が中心ですので若さがいっぱいのたのしい会でした。

東京南支部

いよいよ初夏の候となりました。各支部のみなさんお変わりございませんか。

私たち益々元気にやっております。四月の十三日は会員、求道者たちで庭の回りに花壇を作りグラジョーラス、ダリヤ、スイートピー等いくつかの花の種をまき、一週間おくれて空地をたがやして大根、人参等の野菜の種を蒔きました。この頃はもう全部芽を出し聖さん会が終わる度にみんなで庭へ出て成長の様子をみるのが日曜の一つの楽しみになっています。きっと美しい庭になることでしょう。その日が楽しみです。

四月に入って就学就職で地方の支部の方がこの南支部にも転入してまいりました。金沢支部から野田由里、藤江亜子姉妹、松本支部から児玉栄治兄弟、沖縄は那覇支部からは高吉弘志兄弟の計二人の兄弟と二人の姉妹です。三支部のみなさん確かにおあずかり致しました。みなさんもう南支部とも大部なじみ御国建設の為に仲良く共に頑張っております。どうぞ御安心下さい。

この支部だよりを拝見しておりますと毎月のようにどこかの支部にモルモンの家庭が誕生しております。南支部にも二年振り四月の九日にモルモンの家庭が生まれました。長い間、南支部の会員はもとより京浜地区の多くの会員をいろいろさせた前支部長であり、また現東地方部MIA指導者の中東兄弟です。新婦は南支部会員の三田姉妹です。では結婚式のことなど御紹介しながら各組織を紹介したいと思います。

結婚式

花曇りの四月九日、中東兄弟と三田姉妹の結婚式がアンダーセン伝道部長の御出席のもとで行なわれました。当支部での挙式は久し振りの事、前日から皆落ち着かぬ様子でしたが坂井兄弟の司会で午後二時から取り行なわれました。会場にはお二人の御両親、御親戚を始め、約六十人以上もの人が参会し、佐藤兄弟のかなでる結婚行進曲に連れて花婿花嫁がアンダーセン伝道部長の前に進まれ誓いの言葉がかわされた。続いて佐藤竜猪兄弟がお祝いの言葉を述べられ最後に讃美歌三十九番を合唱、浅野兄弟の祈りに式はとどこおりなく済みました。また当日の花嫁は打掛に文金高島田、それが式場の雰囲気に素晴しくマッチし、美しく印象的でした。式の後で会員から送られた大きなケーキをかこんでダンスパーティが開かれなごやかな内に終わりました。私たちは新しいモルモンの家庭が誕生したことを心から、お祝いし中東御夫妻がいつまでも御健康で活躍されるよう祈ります。

伝道本部だより

バプテスマ　一九六三年五月

阿倍野
香川隼宏
中宮本民子
鈴鹿慎三昭
高下千鶴子
高下利
旭川
石川浩子
松本靖子
福岡
今井宏一
刈屋雅雄
水野育圭
白木守
川口緒司
池田洋
二村美智子
名古屋
柄目純子
室蘭
高山やよい
村田富久子
安部貞子
松本
滝村力
馬渕直樹
沖野洋子
鈴木慶子
高橋満津子
岡町勝
大木二
杉本守
小樽
江口功
端行男
池陸
葛西
札幌
西村康彦
笹森一
佐藤満利子
柴田直毅
渡辺恒夫
仙台
松田清志
菊地尚子
間中敏次
村井昭夫
李敏燗
東京東
城井田まゆみ
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

群馬
新後閑美智子
多胡洋子
常見三枝子
広島
大畠玲子
沖根吉美智子
沖内行貴子
竹安和子
友
京都
岩崎要二子
中村幸
豊田中和枝子
沢口ヤス子
坂野君昭
斎藤与志枝
真壁雄
倉田市郎
片桐瑤子
猪股正英子
堀川福美子
本間正弘
鳥海裕子
新潟
杉浦規英
名古屋
西の宮
東京南
東京北
舟田康夫
宮城時夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

東京東
城井田まゆみ
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

李敏燗
東京東
城井田まゆみ
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

那覇
東京東
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

横浜
那覇
東京東
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

山上
那覇
東京東
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

山川
上原
那覇
東京東
東京中央
菊地清
松田功
鈴木哲雄
吉田孝治
吉田慶満子
吉田満
大沼美子
大沼根
室岡勝子
村松幹夫
水野章
八田憲
山形
寺田ツヤ子
樋山孝子
浜崎志津子
浜崎郁夫
東京西
渡辺正紘
奥山静江
中山亨一
飯倉兼義
百東辰他
東京南
失仲知哉子
井上正年
堀口従道
舟田康夫
東京北
宮城時夫
神権
旭川
木崎正己（祭）
熊谷厚（執）
山根俊和（教）
福岡
中川征俊（執）
群馬
松本謙次郎（長）
金沢
川端啓暉（執）
甲府
ヤツシロヨシタロ（長）
新潟
福島克明（長）
五十嵐タカオ（長）
水野泰隆（執）
仙台
阿倍順夫（長）
東京中
深沢暢決（長）
久保国雄（長）
及川庸（教）
イワイケンジロウ（執）
東京北
森村久男（長）
小林義生（長）
細野孝紹（長）
高野実（長）
岡田松雄（長）
東京南
津端了治（長）
東京西
井出晴久（長）
斎藤焼（長）
横浜
岩井邦次（長）

アロン神権者用

ブランチ・ティーチング・レッスン

千九百六十三年六月

訪問教師のメッセージ

（千九百六十三年七月の第一週に）

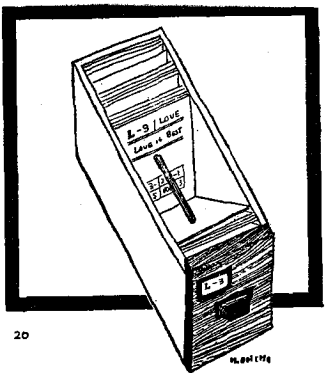
慎みを培え（慎み深くあれ）

道徳の腐敗した世に於て慎み深いことは徳義の王冠である。この最上の資質の重要性を強調する必要性が益々多くなって居る。不貞は道徳的に最悪の一つである、世界史上、偉大なる帝国が貞節の徳義が欠乏した為に崩壊したのである。不貞は単に国民を堕落させるだけでなく家庭を破壊し、個人の性格を弱めるものである。過去に於て荒廃した民が今日に於ても尚、諸国民の脅威となっているのである。

私たちはこのような破壊的影響力に対してどのように立ち向うべきであろうか、十誡を覚えよう。姦淫は殺人の次に二番目に挙げられている。主は決してこの津法を中止しなかったばかりでなく却ってその重要性を再強調しているのである。慎みは貞節の先駆者であるから之を養成して高尚な人格を強めるべきである。この性格は正しい生活をしようとする人にとって守護者となる。慎みは「思い」言語及び服装を統制又は抑制することによって培われるのである。私たちが若し不貞な「思い」を心に入れなければ悪は存在出来ないのである。若しも私たちが根本的な「思い」に屈服しなかったら私たちの言葉にも非難される点はなく、私たちの行動は、この「思い」と言葉に平行するのである。

個人的な純潔さは、私たちの見たり聞いたりすることから大きな影響を受ける。下品な情景はいたるところにはびこっている。腐敗した冗談は益々多くなっている。人々はこのような下品な話をすることによって社会の良風を害っているのである。このような風習に大きな危険性があるのである。私たちが悪い言葉を聞く時に「思い」が植付けられ、これが私たちの道徳的な強さを除々に侵害して行くのである。若しも私たちが悪を語り罪を犯すなら、私たちの友だちの意志をも弱くするようになる。今日、この慎みに影響する重要な問題は不適当な服装である。或場合に男も女も流行の奴隷となる。ペンジャミン・フランクリンの言葉に「流行を追わないよりも地獄に落ちる方をおそれない多くの人が居るようだ」とある。流行を追う者は時として大胆な恥知らずの服装をする。

この服装の流行をつくり出す者の内には、悪だくみを持っている者のあることを心に留めなくてはならない。大胆な服装が、はやって来るのは彼らがそれを受入れるからに外ならない。正しい服装をすることは貴婦人又は紳士たる、しるしの一つである。多くの道徳的悲劇は不適当な服装に起因している。慎みは決してもてはやされることと妥協するものでないことを常に念頭におくべきである。私たちはこの慎みという上品さを育成する責任がある。「思い」、言語及び服装を統制又は抑制することは、私たちがこの高尚な資質を身につけることを援けるのである。



系図の道しるべ

藩主、領主関係史料

武士は勿論の事神主、豪士の身分にあった人々も旧藩主の家に系図関係の史料を残している場合があります、すなわち、分限帳、待帳、書上げ記帳と言われるものがそれであります。

殊に武士の家柄の人の場合は其藩主の家の歴史を調査する事は大変必要であります。更にさかのぼって徳川時代前のその居住場所に関係ある守護、地頭をも研究する必要があります。図田帳、田文、各地御家人、その一族郎党などの交名は系図研究にもっとも重要であります。

幕府関係史料

吾妻鏡(鎌倉幕府時代の歴史)、下し文、末印状、それ等を蒐集したもの、武鑑(武士の姓名を集めた記録)の類い、その他留書、日記のたぐい、其家と関係のあるものはすべて調べる必要があります。

朝廷関係史料

旧公郷華族、大名華族等の流れに属する家門の人々は、朝廷関係の史料も調べる必要があります国史、大日本史料を調べる事は勿論の事、補任帳、交名帳、歴名帳(何れも朝廷に於て官職に任せられた人々を順次に載せたものであり、世襲官職が建前であった昔に於ては系図帳のようなもの)などを研究すると意外な収穫がある。

其の他の史籍、伝記、文献

単記、戦記には系図上の記事が多い。伝記類には重要な端緒を得る事もしばしばあります。高僧伝、名医伝等も場合によっては手掛りを与えてくれる事があります。

其他、旧幕時代、明治、大正、昭和時代の初期に発行された書物、蒐集した結果を編集して発行された文献、旧家、名家、又個人所有の古い文献で世間に流れ出たものや、神社仏閣、官公署、郡、市町、村役所編さんの書物で、系図研究上有力な資料が沢山有りますので、これ等のものを研究する事は最も必要な研究方針と言っても宜しいと思っています。

石井正道

委員会手引き

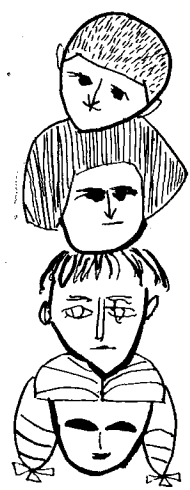
親愛なる委員会の皆さんお元気ですか。日頃の御努力を厚く感謝致します。委員の方は次の事を備えて下さい。

一、記録簿　二、ファイル　三、系図室

四、系図図書記録簿は近々伝道本部で一括して印刷する予定ですが、それ迄では失なわないような記録簿を使用して下さい。ファイルとは必ずしも立派なものを要求しておりません。系図の記録が完全に保存される場所です。系図室とは定められた部屋で系図に関する資料を自由に張ったり又、委員が優先的に使用出来る部屋です。もちろん、MIA、日曜学校などで使う部屋でも良いわけです。系図図書とは系図に関する書籍を集めたり、毎月発行される聖徒の道の〝系図の道しるべ〟を集めて後の委員に役立つようにして頂きたいのです。

子供の日曜学校ガイド

7月用



梅雨期に入りましたが、そんな、天候にもめげず、先生と子供たちとで、一生懸命に福音の勉強に励んでいらっしゃることと思います。

次に載せましたA・B・これらは、割合にどこの支部でも起こっていることでしょう。

A　日曜学校の始まる時間より、ずっと早くから教会に集まってくる子供たちがいることです。

そのような、子供たちに対して、どの様な扱い方をなさっていますか？

これらの子供たちに対して私たちの取るべき態度を考えてみましょう。

「わが家は祈りの家である」ルカ十九〇四六

1. その時刻に教会にいた、兄弟姉妹は優しく握手を求めて「お早よう」と挨拶をしていたでしょうか？

（もしも、そうでなかったら、皆さんの協力を得ること、心からの歓迎は子供にとっても嬉しいものです。）

2. もう少し静かにしてネ、椅子にジットすわっていてネ、といっただけでしたか？

3. 何か本を読んでいるようにと、適当な本を用意してあげましたか？

4. 先生のお手伝をしてもらいましたか？

（讃美歌を配ったり、黒板をきれいにふいたり等）

5. どうしてこんなに早く来たの？と質問しましたか？

（貴女は歓迎の意味でいったのですか？　それとも他の理由で？）

6. 全然、知らん顔をしていましたか？

きっと、先生方はプレイ・ミーティングがあって忙がしい時でしょうが、必ずこれらの子供たちに言葉をかけてあげてください。そして、祈りの家である事を忘れずに、教会の中を走り廻ったりしていない様、前記1. 3. 4. の方法を取ってみては如何でしょうか？

B　物語、紙芝居を行なう時に、もう一歩の工夫が欲しいのです。

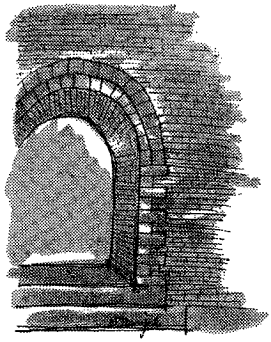
1. 言葉は明確に。
2. 言葉の使い方（抑揚）

（登場人物、或いは動物等の声の出し方に注意すること）

3. 速度に気をつけること（間）
4. 全体を判読し、決して、いきなり本番をしないこと。
5. 何人かが組んで行なうのも一つの方法

（ドラマ風に、擬音等を使ったりして）

（三八九頁に続く）



日曜学校ガイド

7月用

全国日曜学校大集会

先月号に概略を書きましたが、そのほか次のようなことも企画しておりますので発表いたします。

1. 佐藤竜猪兄弟を囲んで福音の奥義について質疑応答を行う――福音を教えているうちに分らないこと、明らかでらいことが多々あると思います。そこで今度の機会に伝道部切っての教義通である佐藤竜猪兄弟を解答者に迎えて教義問答を行います。似たような質問は同一時間中に行ったりするために質問は予め上野あてに送って頂きたいと思います。
2. 日曜学校の運営、及び管理についていろいろ討論いたしますので、今から問題点について考えておいて下さい。
3. 記録、つけ方など多々問題があると思います。これは今新しく完全なものを企画中ですので御意見をいろいろお聞きする予定です。

尚詳しいことはチラシを配る予定ですので御期待下さい。

子等は歌う

子供の日曜学校で使用している歌の本「子等は歌う」は最近本部の在庫品もなくなり、早急に翻訳、出版する必要にせまられていますが、このたび、伝道部日曜学校会長会では「子等は歌う」の翻訳委員会を作って、今までの本とはまたちがった、新しいおもむきの本を作る計画です。童話や、民話など、子供たちに親たわれれている曲を多く取り入れるつもりです。

記録について

最近、記録の提出が非常に悪くなっております。本部会長会はユタの本部に記録を送るよう義務付けられていますので、ぜひ協力していただくようお願いします。また、記録の提出状態の悪い支部は、この頁をかりてどんどんと発表していきたいと思っております。あなたの支部の名前がのらない様に努力してください。

会長会へ

各支部を廻って気がついたことを列挙いたしますので心当りのある支部は本部の標準に従って下さい。

I 組織

1. 第二副会長に姉妹が任命されている支部がありますが神権者あるいは兄弟が望

ましい、伝道部の場合は特別なのであって支部がこれをまねる必要がない。

2. 子供の日曜学校には会長会を作ってはいけません、責任者は一人で司会、会長会との連絡、各クラスの管理を行う。

3. 会長会の責任の分担を守って下さい。責任については六二年四月号二四〇参照

II 祈り会

1. 神の御霊の助けを受けるよう祈ることが目的なのですからゴタゴタしながらプログラムを決めては意義が薄くなる。プログラムは既に会長会のノートに書かれているはずです。

2. 参加している人は会長会だけという支部がかなりあります。教師、二分半の話手、祈る人すべてが参加しなければなりません、出席できない人はお断りするということにしてもよい位厳寄にしたいものです。

3. 十時十分に始めて下さい。神権会が遅くなって日曜学校開会式まぎわに忙しく終らせるなどは極力避けて下さい。

4. 順序は六二年五月号二八六頁に徒って下さい。知らない支部があります。尚(4)と(5)をとりかえた方がよいでしょう。いつまでも「五分前です」「ホールに集って下さい」などと書記が一々言はなくても済むのではないでしょうか。

5. 二分半の話手がこないときは、いつも用意して準備している役員、教師がピンチ・ヒッターになって必ず二人でるようにして下さい。

III 開会

0. 前奏、十時二十五分頃から始めて下さい。前奏が鳴ったら私語は止めて、主を礼拝する敬虔な雰囲気をたたえるよう十分注意して下さい。宴会かパーティみたいに賑はっているのは教会として実に恥かしいではありませんか。

1. 火事か地震がない限りは十時三十分に始めて下さい、新潟、東京南支部は非常によく守っております。

2. 司会者の挨拶は三十秒以下にし、その後、クラスに分かれるときに「ではクラスに分かれて福音を学びましょう」と言う以外プログラムの説明はしない方がよい。

3. プログラムはなるたけ刷るようにして下さい。もし難しければ黒板に書いておいて下さい。そのときは開会まぎわにあわててチョークをとることがないように準備して下さい。又開閉会は変りませんから消えないもので書いてよろしいのでは。

4. 開会の歌は元気のよい歌を選んで下さい、聖さん会、別れ、葬式（これはないでしょうが…）の歌は絶対に避けて下さい。開閉会の歌は半分以上の人が知っている歌を決めて下さい。

5. 祈りをする人には次の事柄を守ってもらって下さい。

(1) 司会者席に座る……開会の歌が終ってから足音も勇ましく後ろの席からステージまで遠路はるばる？ は感心いたしません、その他プログラムの参加者すべてについて言える。

(2) 「お祈りいたします」は不必要で、すぐ「天の父なる神様」と始めて下さい。早く悪習から離れて下さい。

(3) 全会衆に聞えるように大きな声で祈ること――ホールが大きくて声が透らないときはマイクを使うべきです。

(4) 全会衆の代表者として祈ること――

個人的な祈り、私的な祈りは避ける。

(5) 説教者の前で祈ること――そのために説教者のところには誰も座らないことが必要で他の話手も同様です。

(6) 「私たちと同じような祝福を、出席できなかった人々にもお与え下さい」は止めて下さい。出席しなければ得られない祝福を「秩序の神」は出席しない人に与えられるはずがないから…。勿論、病にふしている人、悩んでいる人に恵みがあるようにと祈るのは何らさしつかえありませんが。

(7) 「小さな」「まとまりのない」「ささやかな」「簡単な」「つまらない」の謙遊な信飾語は絶対不必要です。

6. 聖句朗読、あくまで国語を用いて下さい、時間も三十秒を越えるのは避け、テーマが一つ、はっきりしているものを選んで下さい。

7. 練習の歌に七分以上使はないで、一カ月やるのですから少しづつダシオシミをしながら練習して下さい。二番目の歌ではないのですから、必ず注意すべきことは指摘して直して完全な歌になるよう指導して下さい。特に強弱を正しく歌うよう注意して下さい。(すべての歌について言える) 始めから終りまで同じ強さの歌にもう出会はないように祈っております。

8. 二分半の話については「日曜学校ノート」などで詳しく書きましたので更めてつけ足しませんが、もっと準備された二分半の話を多く聞きたいと心から念願いたしております。

9. クラスに分かれるとき、始めてきた人以外は、場所をクドク言はない方がよいと思はれる。

Ⅳ レッスン

日曜学校の最大の目的である神の福音を学ぶ時間です。余り良く準備しない教師をよくみかけますが、一週間、通勤、通学のとき、休み時間にこれだけを考えていたらもっと優れたレッスンが用意できるのではないでしょうか。「ああ麗しいかな、良きおとずれを告ぐる者の足よ」という聖句にふさわしくあるよう祈っております。どうか我々が書いている「レッスン・ガイド」をよく利用して生きた、楽しい立体的なクラスをもつよう準備して下さい。特に質問を多くしたり、割当てを頼んだりして生徒に積極的に参加してもらうことが必要です。

Ⅴ 閉会

1. クラスに分かれるとき、ホールに集るときにはオルガンの音と一緒に静かに出入りしてもらって下さい。

2. 閉会の歌の前に簡単な発表を行いましょう。ことさら発表する人は司会者一人にして下さい。詳しいことは掲示板、チラシ、プログラムの裏の印刷に任せて、いくら長くても一分を越えないようにして下さい。

3. 閉会の祈りの後に、司会者が又も立ち上って「皆様、どうもありがとうございました。十二時からの聖さん会にも是非」などとせっかくの良い雰囲気を一瞬にしてかき乱さずには閉会はしないという強い決意の会長会の人がおりますが、これは絶対に不必要です。もう見あきた顔を更に人前に陳列して、しゃべる義務はありませんから、そのままお引取り下さい。閉会の祈りが終ったら自然とオルガンが鳴り一番静かに聞き入ってから立つ必要のある人には立って頂いて終るとい

うのが標準です。いろいろと問題がありますが、標準に近づくよう努力して下さい。なお聖さん会までの休憩の時間が一寸騒々しいようですので、教会堂はあくまで静かで聖なる雰囲気が保たれるよう気を配って下さい。金の出し入れ、相談、などはなるたけ礼拝堂以外でやりたいものです。

練習の讃美歌　一三二番

「み神よ降りて」

今月の練習の歌も一見難しそうに見えますけれど、拍子をのみこんでしまえばそれほど歌いにくい歌ではないと思います。

この歌はあまり速く歌うと音符と言葉が合わなくなるおそれもありますし、また軽々しく聞こえますから中庸の速さで歌って下さい。

ソプラノから説明しましょう。

まず附点音符が非常に多い事にお気付になるでしょう。それが附点四分音符だったりしていますから、そこを充分注意して歌っていただきたい。附点のついている音符はともすると必要以上に活潑な感じになりがちですから、スラーのかかっているところは附点でもなめらかに歌う様に。

二段目の三小節はシャープがついていますし、間違えて覚えやすいですから指導なさる方は気をつけてあげて下さい。

アルトはソプラノと五度の開きで歌い出します。五度の歌は三度と同じく歌いやすいのですが楽器のないところでは最初の音をまちがえやすい（ソプラノのオクターブ下を歌うのをよくききますのでよく音を覚えましょう。

テナーは三段目に高い音が出て来ますからコーラスをなさる場合は前もって発声練習した方がいいですね。

ベースの三段目はきかせどころです。他のパートをぬう様に歌いますのできれいに歌って下さい。各パートとも息つぎをどこでするかよく研究して歌って下さい。

七月　一一六番

子供日曜学校　三十五番

お母さんが赤ちゃんを軽くトントンってたたきながら歌う子守歌を想い浮かべて下さい。やさしく、ゆっくり、愛情こめて歌うでしょう。この歌も子守歌ですから、その調子でやさしく歌いましょう。

しかし集会で子供たちに歌わせる時には、あまりゆっくり歌いますと、だるそうで、ねむ気をもよおしてしまいますから普通に歌う子守歌より少々速めに歌って下さい。

三段目の「よるじゅうまもる」のところは少しゆっくり歌います。「る」のところはフェルマータがついていますから、その音の二倍位の長さにして下さい。その後また前の速さに戻ります。

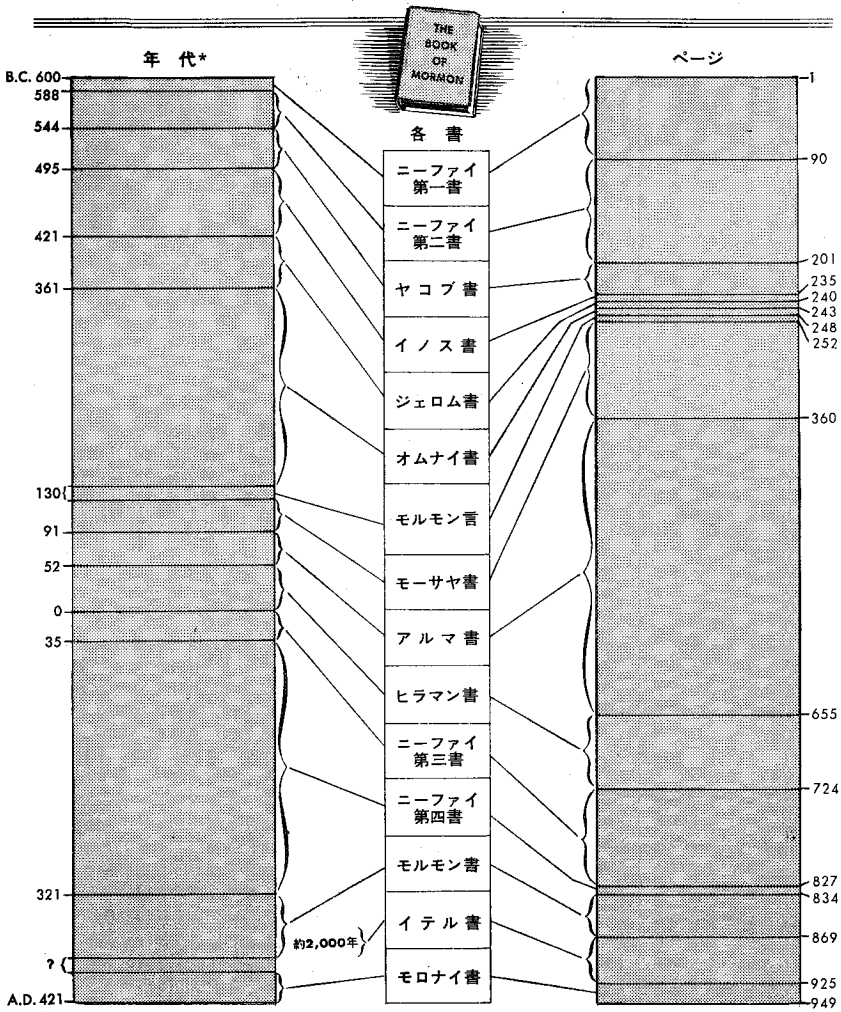
今月は視覚教材としてマリアに抱かれたイエスの写真を使用したらいかがでしょうか。

七月　十二番

練習の讃美歌

7月用

モルモン経の時代とページ



THE INSTRUCTOR
DECEMBER 1962

*Not all dates are definitely known.
**See Ether 1, 13:20-22; Omni 21.

Compiled by Richard O. Cowan

MIA大会変更のお知らせ

親愛なる全国の兄弟、姉妹、お友だちのみなさん、今日は。春もいつの間にかすぎ、夏がやって参りましたが、北の国ではまだ春の名残りも充分に残っておることと思います。さて、四月号に発表されましたように、今夏八月に日本伝道部MIAで初めてのMIA全国大会が二十一日から二十四日まで開かれると発表いたしましたが、都合によりまして一週間くりあげて、**「十四日から十七日まで」**と変更いたします。これはできるだけ沢山のMIA会員が参加していただくために変えたものです。大体のスケジュールの予定を発表いたしますと

八月十四日（水）午後七時～八時四十五分
MIA大会開会式
支部交歓パーティー
八月十五日（木）午前九時～三時
スポーツの祭典
バスケットボール（地方部別トーナメント）バレーボール
卓球
ダンス・パーティー　午後六時～九時
八月十六日（金）
バス・ピクニック（東京近郊）
八月十七日（土）
証詞会　午前七時～十一時
特別役員・教師会　午後一時～三時
MIAハイライト　午後六時～九時
MIA大会閉会式

大体以上のようなスケジュールを組んでおります。このうち費用がかかるのは八月十六日のバス・ピクニックで一人当たり大体、五百円以内です。なお、場所については決まりしだい、各支部に連絡いたしますから、役員の方にお聞きください。後日、参加申込書を御送りいたしますので、ひとりでも多くの方の参加を希望しております。では、みなさんとお会いできる日を楽しみに。主の豊かなる御恵みがひとり、ひとりのうえにありますよう、お祈りいたします。

教師養成用レッスン

良く教え、指導するための六つの基本的標準

第四課（四月号の続き）

(2) 教師は生徒たちを個々に、あるいはグループとして考慮しながら、彼らの経験や能力に見合う質問を与えるべきである。やさしい質問は恥しがり屋か、知識の浅い人にあたえもっと難しい質問は知識がたくさんあり、物事に精通している人たちに向けられるはずである。目的は各人が考える手助けになることであり、ある意味でも自分自身に満足を与えるような仕事をすることでもある。

(3) 教師は質問の数を正しく調べておく。むろん、その数は固定したものではない。しかし、例えばいくにんかが鉄砲の流行に関してクラスの人たちが飽き飽きし、乱れてくるまで質問をしたら、一つも質問をしないのと同じになってしまう。

教師は彼の質問が良く検討され、レッスンの目的にかなうよう、注意深く計画をたてる必要がある。大体、半ダースほどの質問がレッスンの中で準備されれば充分であろう。

(4) 教師は自分の質問に柔軟性を持っていなければならない。しばしば、ある生徒から教師が今まさに質問せんとすることを質問されることがある。多分、最も良い質問がクラスの中に生まれたからである。生徒から質問の出た時・学ぶべき何かの動機が存在している。興味が真であれば、教える方も熱が入ってくる。効果的に教える教師は生徒たちが討論の方向を決める機会が無くならないよう、いつも気を配っており、自分の計画に固守しないものである。

(5) ある質問がクラスの内外を問わず有意義な勉学を刺戟し、促進することになる。レッスンの予習の割り当てに際し、教師は次のような言葉を簡単に云ってはならない「来週のために第六章を読んでいらっしゃい。」むしろ黒板に挑発的な、興味を惹く質問を書き、次のように云った方がはるかに効果的である。「みなさん、お手許のマニュエルの第六章の中から質問に対する解答を見付けてきて下さい。」何かのきっかけを作ってやるのは学習上のポイントであり、何事にせよ、基本的な促進方法である。

(6) 教師は何も全部の質問に答えてやる必要はない。若し、解答できなければ「解りません」と答えれば良い。是非共必要ならば、来週に解答する旨約束すれば良い。時々、クラスで考える意欲や解答の探求を阻害するような質問が出される時がある。教師はどんな質問でも討議する際の成果を計算に入れ、何時ピリオドを打ち、論争を結着させるかを考えていなければならない。

ケース・スタディーの扱い方

クラスの興味をもり上げるのに最も効果的な手段の一つは—適確な質問以上に効果的である—クラスに興味のある一つの場を設定する事である。例えば、ある探検隊のことを尋ねるのに「あなたはキャンプ中に大怪我をした人をどう介抱しますか」と云う代わりに、具体的に、生活に密着した立場を描写する。例えば「あなたはキャンプ地から5マイル離れ、医者の家から30マイルも離れたウィンタ山脈中を歩行している、ある探検隊の隊長であるとする。一人の隊員が不注意にも崖から顛落し、片足を折ってしまう。また、腕からの出血も激しい。あなたはこの大怪我をした少年をどうしますか」。

扱い方—抽象的な質問と具体的な場ではどちらが解り易いか。

ケース・スタディーは幾つかの原則が確立され、討議し尽されたクラスのレッスンの終わり頃に利用されると優れた方法となる。ケース・スタディーがどうしてクラスの終わり頃、考え方を験したり、アイディアを応用したりするのに有効であるかは前の章の「レッ

スンを計画する法」を振り返ってみれば解る。例として安息日を聖く保つ事に関するレッスンの計画法があった。安息日を如何に過ごすかを決めるもととして、その日の目的を学んだ後で仮りの場を設定してみる。二つの例として、

1　あなたは学校を卒業するのにお金が必要である。それには二つのアルバイトが利用出来る。気に入った方は日曜日にも午前八時から午後四時迄、働かなければならない。もう一つの方は日曜日は休みである。あなたはどちらを選びますか、また何故ですか。

2　あなたは遊び友だちと日曜日の午後、スキーに出かけ、夜の十時に帰って来ました。あなたは何をしたのですか、それを云いなさい。」

教師に対する提案

目的—ＭＩＡの教師、指導者が生徒たちの活動やレッスンへの参加の重要性やそのやり方を認識する手助けとなる事。

第四課終了　　佐藤襄二訳

七月二十五日　一般活動「開拓者記念祭」

この日が毎年やって来るたびに、私たちはブリガムヤングにひきいられて荒野を旅し、幾多の苦難の末に、主の恵みし約束の地に着いた先祖の聖徒たちについて想いを新らたにさせられます。どうぞ、ＭＩＡ役員教師の方々、また、すべてのＭメン・グリーナーと、エンサイン・ローレルの人々、この開拓者記念日を迎える前に、「教会略史」を再び読み返えされることを心よりお願い致します。今、恵まれて、たいした苦難もなく生活を送っている私たちが、当時の聖徒たちのうけた苦痛と困難のすべてを、とうていはかり知るすべもありませんが、聖徒たちの歩ゆんだ路を追うごとに感激し、目に涙して彼らの信仰の強さを、たたえずにはおれません。私たち若人が、この末日に生を受けて、やらねばならない責任が何であるか、はっきり知ることも出来ます。

先ず、私たちは彼らの勇気と信仰を讃め、記念すべきこの日に、彼らの偉業を想い起こしてみようではありませんか。

この日のプログラムの責任はＭＩＡ会長会にあります。ＭＩＡ役員の中に、この日がどんな記念日であるか知らずに出席するようなことがあってはなりません。また、単にホット・ドッグを食べたり、フォーク・ダンスを踊る日であると考えてはなりません。

プログラムの中に必ず、開拓者の物語りを入れて下さい。それは、どんな形であってもよいと思います。例えば、スライドを使用して開拓者の通った路を知るとか、また、演劇部の協力を得て、タブロー（絵画劇）や、寸劇なども良いですし、一人の人によって語られても良いでしょう。その後で当時の服装をした人々のコンテストをやってもよいですしあるいは、この日に会にやって来る人は皆、当時の開拓者の服装をして来ることにしてもよいでしょう。また、その頃の聖徒たちがしたように外で火をたいて、ホット・ドッグを作って食べてもよいでしょう。若い人たちが火のまわりでフォーク・ダンスを踊るのも、毎年のことですね。火をたく支部では、責任者は充分注意して下さい。必ず支部長会の方の参加のもとで行なって下さい。火をたく場合は、最寄りの消防署の許可が必要ですから手続きを忘れないで下さい。

ＭＩＡ会長会を中心とした計画・実行委員会を作り、早くから充分な準備をして下さい支部内のすべての人に招待状を送り、参加するように宣伝して下さい。

私たちのＭＩＡ

今月は頁の都合でお休みします。来月は東京西支部の発表をお願いしてあります。

ＭＩＡレポートについて

各支部長あてで新しいＭＩＡレポート用紙が、配布されました。すでに四月のレポートから使用されていらっしゃるＭＩＡもありますが、今後、各支部必ず新しい日本語版のＭＩＡレポート用紙を御使用下さい。なお、新しい用紙（一冊ずつ）を受け取っていらっしゃらない支部がありましたら、ＭＩＡ事務局迄、お申し出で下さい。

新しいレポート用紙は五十枚が一冊になっております。表紙をかねた一番上の頁に、レポート作製方法が載っています。書記の方はよく読んで理解した上で、レポート作製の事務にとりかかって下さい。不明確な所、記載方法のわからない所は、ＭＩＡ事務局に問い合わせて下さい。この伝道部に於いても正しい統計を出したいと望んでおりますので、提出されましたレポートで不備な点は、指摘し質問さもて頂きます。

ＭＩＡレポートの提出場所ですが、どうぞ直接ＭＩＡ事務局へ送付して下さい。伝道本部へ送られますと、回送されてまいりますので日数がかかり締切日に間に合わない場合が多々あります。また、伝道部の書記の方もたいへん忙がしいので、事務の繁雑をさけたいと思います。よろしく御協力下さい。

ＭＩＡ事務局の住所(伝道部ＭＩＡ指導者宅)
東京都練馬区春日町一丁目二六一〇番地
佐藤襄二方　電話(992)八八五六
末日聖徒イエス・キリスト教会
ＭＩＡ事務局

＝あなたと文通を＝

京都支部

北村　泰子　十八才
住所　京都市北区紫野町上柏野町五八
趣味　読書・切手収集・写真・音楽

永野　千郷　十八才
住所　滋賀県彦根市地蔵町四九七
趣味　スポーツ（特にソフトボール）
切手　収集、旅行、絵画、音楽
尚、今春日本体育大学短期部合格

長棟富美子　十八才
住所　京都市右京区山ノ内宮前町七ノ二
趣味　音楽
特技　英語
尚、今春京都女子短期大学英文科合格

山口　敦子　十八才
住所　大阪府高槻市田部
趣味　ダンス

岡田　深雪　十八才
住所　京都市東山区祇園北側三四七
趣味　詩・音楽（ジャズ）

尾中久美子　十八才
住所　京都市伏見区深草ススハキ町
趣味　音楽

片山　治子　十八才
住所　大阪府茨木市倍賀三六三―三
趣味　読書・絵画

以上七名は今春京都女子高校を卒業しました。自称京都ガール・モルモン・グループです。モルモン教徒の一年生で、まだヨチヨチ歩きですので皆さんよろしく御指導下さい。

ＭＩＡ事務局より

「京都ガール・モルモン・グループ」と言う名前は言いづらいですね。「京都モルモン・ガールズ」としたら如何でしょう？

伝道部扶助協会長メッセージ（ミッションマザー）

ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

愛する姉妹のみなさま。今月は、この偉大な扶助協会の働きに専心していらっしゃる私たちの指導者の一人がなさったお話をみなさまにもお分けしたいとおもいます。これは千九百六十二年の十月三日に、毎年開かれる扶助協会の総大会の一般大会でマリアンヌ・C・シャープ姉妹（副会長）がなさったお話であります。

扶助協会は、福音のあかしを得るほかに類のない機会と、そのあかしを日々強める方法とを女性の方々がお持ちになるようにさしあげています。過去数年の間、一年毎にひじょうな勢いで増してゆく速度で、私たちの教会が地球上にひろがってゆくとともに、この扶助協会という組織は各国の一般女性の方々、教会の会員、改宗者の方々、求道者の方々に扶助協会のもつ祝福をお受けになるようにさしあげています。

扶助協会は改宗者を得るなかだちになることができます。また、扶助協会はほかに類のない組織でありますから、女性の方々があかしを強めるために類のない機会をお持ちになるようにすすめています。扶助協会は、父なる神の娘たちが完全になるため「天の父なる神」がお与えになった、この地上にある組織であります。扶助協会は予言者ジョセフ・スミスに与えられた霊感によって始めて組織され、これまで百二十年間「神の神権者」によって指導されてまいりました。

マッケイ大管長の「教会員は一人のこらず宣教師でなければならない」というおことばに従って、扶助協会の会員は一人のこらずふるい立ち、このあかしを強める神の協会へ自分の国の女性をつれてくるように努力をかたむけなくてはなりません。

扶助協会のみなさまは、ローマ人へ与えたパウロのことば「わたしは、あなたがたに逢うことを熱望している。……わたしはほかの異邦人の間で得たように、あなたがたの間でも幾分かの実を得るために、あなたがたの所に行こうとしばしば企てた……わたしには、ギリシャ人にも未開の人にも、賢い者に無知な者にも、果すべき責任がある……わたしは福音を恥としない。それはすべて信じる者に救いを得させる神の力である」（ローマ人への手紙一〇十一、十三―十四、十六参照）ということばを、一人一人に与えられたことばとして受けるとよいと思います。

今日、主は「汝らはすべておだやかにしてへりくだり、皆ことごとくの人その隣り人にとりて警しめの声となる教えを説くべし」（「教義と聖約」三十八〇四十一）と言っておいでになります。扶助協会の会員は、おだやかにしてへりくだり、このあかしを強める神

の協会を隣り人に注意させることができないわけがありません。私たちもまた賢い者にも無知の者にも、パウロの当時ローマ人でなかったギリシャ人や未開の人に匹敵する現代の人々に果すべき責任があるからであります。

婦人方がつくっていらっしゃいますいろいろな団体がありますが、その中で扶助協会はほかに類のないものであります。扶助協会は、その会員が教会の標準聖典を忠実に勉強していますけれども、勉強するためのクラブではありません。その会員が一人のこらず家政を改良するための訓練を受けていますけれども、主婦のクラブではありません。その会員が偉大な書物から深い知識を得ていますけれども、文学のクラブではありません。それは奉仕をすることを研究し後援をしていますけれども、社交クラブではありません。また教会のプログラムに事実上金銭上の支持を与えていますけれども、お金をつくるためのクラブではありません。扶助協会は、最も高い永遠の目標をもっている「啓示によって組織された」協会であります。

今から一年前、扶助協会の大会でブラウン副管長は「私たちが扶助協会以外の組織や補助組織について言うときには、しばしばそれらの組織のプログラムやそれらの組織の活動ということばを使う。しかし、私たちが扶助協会について言うときには、扶助協会の働き（わざ）ということばを使う」（千九百六十一年十二月の扶助協会誌八一一頁参照）。とお言いになりました。

ブラウン副管長がお言いになったこの働き（わざ）とは何のことでしょうか。千八百四十二年、扶助協会の精神を実行するために、予言者ジョセフ・スミスが扶助協会に与えた最も重要な基本のことばは「汝らわが為すを見るところのわざを為せ、とイエスは仰せになった」ということばでありました。それから後の扶助協会の集まりで予言者ジョセフは「もしも姉妹たちが主を愛するならば、羊を養え」また「わが協会は貧しい者を救済するだけでなく、すべての人の身も霊も救うのである」と言いました（教会記録史第五巻二十四―二十五頁参照）。

私たちは、おだやかにしてへりくだり、門内にいる姉妹たちや見知らぬ人たちに手を伸ばして、扶助協会のもつ数々のめぐみや機会にあづかるように力を借す努力を倍加しなくてはなりません。扶助協会の力は、会員個々の方々がもっていらっしゃるあかしの総和、とりもなおさず不調和、口論、悪感情また一致の精神とお互いを強めあうことを危うくするものを焼きはらう、へりくだった燃えるようなあかしの総和であります。

これらのあかしは聖典の研究、姉妹たちの間やあかし会のときの討議などだけで得られるものでなくて、イエスが仰せになった「わざ」を実行することによって得られるものであります。あなたがたはヤコブの言った「しかし、ある人には信仰があり、またほかの人には行いがある、と言う者があろう。それなら、行いのないあなたの信仰なるものを見せてほしい、そうしたら、わたしの行いによって信仰を見せてあげよう」（ヤコブの手紙二〇十八）ということばをおぼえています。扶助協会は一人のこらずの女性が自分の信仰を自分の行いによってあらわす良い機会をさしあげています。岩の上に私たちのあかしを築くために、私たちは自分の隣人を愛するようにならなくてはなりません。個人として、大ていの姉妹は自分の知っている隣人がこまっているときその人に対して親切ていねいであ

ります。しかし、あの「よきサマリヤ人」は、傷を負って倒れていた人が誰であるか知りませんでした。知っていたのは、その人が自分たちサマリヤ人をけいべつしている種族の人であるということだけでした。扶助協会の中で隣人に対する愛が強くなるときにもこれとおなじであります。どの姉妹でも、権能のある方の指示に従い、場所と方法とを問わず助けなさいと言われた人々のために働きます。

このような、自分を忘れた献身的な奉仕によって扶助協会の会員も精神も発展し、いろいろな働きが信仰の力の足らぬところをおぎない、母親の場合には、母親の模範がその子供たちに与えた良い感化を通して、めぐみにめぐみが加わるのであります。また子供たちも、その母親の強くなったあかしの力を受ける者として同様にめぐまれるのであります。

私たちは扶助協会の会員として、「日の栄の王国」に入りたいと思って努力している者であります。私たちは、その王国に到達する方法とはげましとを現在目前に扶助協会がもっていることを知っております。それで私たちは、私たちのもっている光と知識とを増そうと努めております。私たちは「行いのない信仰は死んだものである」ことを知っております。また自分を救うためには、ほかの人々を救わなければならないことを知っております。福音のあかしは私たちのもっている一番貴いものでありますが、それは扶助協会の中で得られますから、私たちはこのすばらしい扶助協会にほかの人々も入れるようにしなくてはなりません。これからさき、会員の一人一人がそのようにするようお祈りをいたします。

（三七七頁より続き）

○下級生向、指の遊び。

詩の中にアクションをつけて耳と手とを動かしながら神さまに感謝する一つのゲームです。（　）内は手の動きを示します。

ありがとう
神さまは　わたしに二つの目を
くださいました
（両方の目を左右の人差指でさす）
神さまが　作ってくださって
美しい世界をみるために
（両腕を大きく拡げます）
鼻は、きれいな花の匂いをかぐことが
できます
（鼻を右手、人差指でゆびさす）
小鳥の声をきくために
神さまは二つの耳をくださいました
（耳を左右の手でゆびさす）
美味しい食物をたべられるように
口をくださいました
（右手、人差指で口を、ゆびさす）
そして　心は神さまを愛するように
（右手、ハートにおく）
こんなに　よいものをくださって
神さま、ほんとにありがとう
（両手を膝に、頭をさげる）

母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯（八）

第十七章　予言者ジョセフ・スミスの歴史――ジョセフ・スミス（初代）の見た第七回目の示現

さて、これからジョセフ（二代目）の歴史についてお話を始めます。ジョセフ（二代目）がいつどこで生まれたかは表をごらんになれば、すぐにわかることであります。それ以上は、今までお話いたしましたこと以外にジョセフが十四才になるまでのことは何にも申しあげないことにいたします。しかし、これについては、読者の中に失望なさる方々もあることに私は気がついております。と申しますのは、度々私によせられた質問から推量して、私がジョセフの幼い時に起こった多くの目に立つ出来事を話そうとしていると思っている方々があると想像されるからであります。さりながら、ジョセフの幼い時にはどの人間にも共通な平凡な出来事のほかに何もありませんでしたから、私はこれについて何も申しあげません。

ジョセフが十四才のときに、私たちをひじょうに驚ろかせた一つの事件が起こりました。私たちが驚いたのは、それが何のために起こったのか、私たちには原因がさっぱりわからなかったからであります。ジョセフは、まことに物しずかな気立てのよい子でありましたから、誰かに悪く思われているなどとは少しも考えておりませんでした。ところが、ある日の夕方、ジョセフが言いつかった用を達

して家へ帰って来まして、戸口の先の庭を通って来ると、明らかにジョセフを撃つ目的で、その歩いてくる道を横ぎって鉄砲が発射されました。ジョセフがびっくりして戸口のところへとんで来ましたので、私たちは時を移さずジョセフを闇うちしようとした犯人を探しに行きましたが、その晩は犯人の行方を探し出すことができませんでした。翌朝現場へ行ってみますと、犯人が鉄砲をうったときに車の下にいたあとをみつけました。またそのあくる日になって、私たちは、鉄砲から発射された弾丸がその車の反対側の暗いすみのところにいた牝牛の頭と首のところに当たって止まっているのをみつけました。私たちは今になってもこの殺人をくわだてた犯人を見つけることができません。またどうしてそんなことをしたか、そのわけもわかっておりません。

さて私は本題に入る前に、私の夫が受けた第七回目の示現のことを次に申しましょう。これは千八百十九年に受けたものであります。夫は次のように申しました。

「私は夢を見た。その夢の中で、行商人の品物をひとたば背中にしょった一人の男が私のところへ入ってきて、次のように言った。『だんな、今日も商売をさせてくれませんか。私は今まで七回もやってきてその度商売をさせてもらったが、あんたはいつでも全く誠実に取り引きをして下すったことを知ってます。あなたの枡はいつでも山盛りであり、あなたの秤りはいつでもぴんとあがっています。今日は、これで私があなたのところへくる最後の日であることを話しにやってきました。もうお目にかからんでしょう。それで、あなたが救いを得るには、たった一つ足らないものがあるということを話しにやってきたのです』と。私は、まだ足らないというその一つのものを知りたいと切に望んだので、その男にそれを紙の上に書いてくれとたのんだ。その男は、それでは書いてあげようと言った。私はそれを聞いて紙をとりにとんで行ったが、あまりわくわくしたので目がさめてしまった」。

私の夫がこの示現を受けてからまもなく、私たちの住んでいた所の附近に宗教復興の大きな動きが起こって、それは附近にあるキリスト教のあらゆる宗派に及んで行きました。

註。この宗教復興運動は千八百二十年の冬の始めから春にかけて起こった。

世の中の人の多くは、自分たちのたましいの救いを考えるようになって、出てきて求道者になりました。これらの人々は、たいていどの教会かに入りたいと思っていましたが、自分の受け入れるとくべつの信仰については何もきめていませんでした。多くの集会の場合、会が終ろうとして求道者といろいろな教会の指導者たちが、求道者をどの教会へ入れようかという問題について相談をし始めると、場合によっては争論が起こりこれらの人々の間に大きな争いがありました。

これらのことが行なわれているうちに、ジョセフは宗教についてひじょうに心になやみました。それについては、ジョセフの筆になる彼の歴史の抜萃をお読みになれば、ジョセフがどのように感じていたか、またこの時にジョセフがよくよく考えた結果どうなったかが、私が言うよりもっとはっきり解るにちがいありません。

「私はこのとき満十四才をこしたとしであったが、父の家族は長老教会派に改宗して、家族のうち四人すなわち母のルシイ、兄弟のハイラムとサミュエル・ハリスンおよび姉のソフロニヤがこの教会

に加入した。

この大さわぎのあいだに、私の心はややメソジスト派にかたむき彼らに加わろうとするねがいをいくらかもったが、なにぶんいろいろな教派の間の混乱とあらそいがはげしかったから、私のような年もゆかず世の中のこともよく知っていない者にとっては、誰が正しくて誰がまちがっているかなどのしっかりした結論を得ることはとてもできなかった。

私のこころはときどきひどくかき乱され、そとのさけびごえとさわぎはひじょうなもので、たえまもなかった。

このことばのあらそいと信念の動揺のまっさいちゅうに、私はしばしば自分の胸に問うた「私はなにをなすべきか。すべてこれらのなかまの中で誰が正しいのか。あるいは彼らはともにみなまちがっているのか。もし彼らの中で誰かが正しいとするならば、それはどれであって、どうしてそれがわかるのか」と。

これらの宗教家なかまの言いあらそいからひき起こされたきわめてむつかしい事情の中で、私がこころを苦しめているある日のこと、私は新約聖書ヤコブ書第一章第五節の「汝らの中、もし知恵の欠くる者あらば、惜しむことなく、またとがむることなく、すべての人に与うる神に求むべし。さらば与えられん」というところを読んでいた。

どの聖句にもまさって、このときほどこのことばが私のこころに真に力づよくせまってきたことはない。それは私のこころの底という底を大きな力でつらぬき通すような気がした。私はこのことばをくりかえし思いめぐらして、もし誰かが神からの知恵を必要とするならば、正にそれは私であることを知った。なぜならばこのとき私はどうしてよいか知らなかったし、当時私の知恵よりももっと深い知恵が得られなかったなら、私は為すべき方法を知らなかったからである。それというのも、いろいろな教派の宗教々師たちは、聖書のおなじ章句をめいめいひじょうにちがって解釈し、そのけっか人が聖書によって疑問を解決しようとする信頼をことごとくこわしていたからである。とうとう私はこのまま暗黒と混乱のなかにとどまらねばならぬのか、それともヤコブのさしずをするとおり神にねがわねばならぬのか、どちらかにせねばならぬという結論に達した。私はついに「神にねがう」と決心をして、もし神が知恵の欠けた者に知恵を与え、しかも惜しむことなくとがめることもないならば、ひとつ神にねがってみようときめた。そこで神にねがうというこの決心にしたがい、これを実行しようとして私は森のなかへ人を避けて入りこんだ。

それは千八百二十年の春のはじめ、一点の雲もない美しい朝であった。このようなくわだてをしようとしたのは、私の生涯ではじめてであった。というのは、私があれほどくるしんでいるまっさいちゅうでも、口に出して神に祈ろうとしたのはまだこれまでなかったからである。

私は前もって行こうと計画をしておいた場所へ人目を避けて入りこんでから、あたりを見まわして人げのないのを見すますと、ひざまずいて自分のこころのねがいを神に祈りはじめたが、私が祈りはじめるやいなや、ただちに私は何とも知れぬ力によってとらえられ、ついに私はまったく抵抗力をうしなった。またその力は私の舌さえしびれるほどのおどろくべき力をふるったので、私はものを言うこともできなかった。そしてあたりはだんだん暗くなり、一時は

あたかも私はこのまま急に死んでしまうかのように思われた。

しかし、私は自分をとらえたこの敵の力からなにとぞのがれしめたまえと全力をふりしぼって神をよびもとめたが、私がいまにも絶望にうちしずんでわが身を破滅にまかせようとしたその瞬間、それはかんがえただけの滅亡というようなものでなく、目に見えぬ世界からきた何ともわからぬ生きもので、まったくこれまで私がどんな者に逢ってもおぼえたことのないほどのおどろくべき強い力をそなえたものの力にうちまけて、わが身をみすてようとしたその瞬間、このひじょうなおどろきの瞬間である。私は自分の真上に太陽にもましてかがやく一つの光の柱を見た。そしてその柱はしだいに下りてきて、光はついに私の上にふりそそいだ。

その光があらわれるやいなや、私はわが身をしばった敵からすくい出されたことに気がついた。そしてその光が私の上にとどまったとき、私は筆紙につくしがたいかがやきと栄光とをもちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私にことばをかけて私の名をよびたまい、他のお一人をさして「こはわが愛子なり、彼に聞け」と仰せられた。

私が主にうかがおうとした目的は、私がいずれに加入すべきかを知るためにすべての教派のうちでいずれが正しいかを知ることであった。それで私はわれにかえってことばが出せるようになるやいなや、私の真上で光につつまれて立ちたもう御方に、すべてこれらの教派のうちでいずれが正しいか。そして私はいずれに加わるべきかをうかがった。

ところがそのお答えに「汝はそのいずれにも加わるべからず、かれらことごとく誤まれるをもってなり」と言いたもうた。そして、私に話しかけたもうたそのお方は「彼らの信条はことごとくわが目より見てにくむべきものなり。また彼ら信条を口にする者たちはことごとく腐敗せり。また彼らはくちびるもてわれに近づけど、そのこころはわれに遠ざかれり。彼らは人のいましめを教えとして教え、神をうやまうさまをすれど神の力を否む」とのたもうた。

このお方はふたたび私にどの教派にも入ってはならぬととめたまい、またほかに多くのことをしんじつ私に告げたもうたが、このたびはそれを誌すことができない。私がふたたびわれにかえったときに気がついてみると、私は背をしたにしてよこたわり、天を仰いでいたのであった。

この示現を見た約二・三日ののち、私はまえに話した宗教上のさわぎのときにひじょうに活動したメソジスト派の一教師とたまたま一しょになった。そして宗教上の問題について話をしたついでに、私は私が受けた示現について物語った。ところが私はこの教師のふるまいにひじょうにおどろいた。彼は私が神と交通したことをそっけなくあしらったのみならず、またひじょうにけいべつして言った。そんなことはまったく悪魔のしわざである。いまの時代に示現だの啓示だのというようなことがあるものか。すべてこのようなことは使徒の時代でおわっている。もうこれからけっしてそのようなことがあるものかと。

しかし、それからまもなく私がこの話を語ったことが宗教を口にする者たちのあいだに私に対する大きな反感をひきおこし、そしてこれがひどい迫害の原因であったことを私はさとった。そしてこの迫害はますますひどくなって行った。私はひとりの名もない少年であった。たった満十四才をこえたとしの少年でしかも生活状態から

言っても何ら世間でとるに足らぬほどの者であったけれども、身分の高い方々は私に反対して世間の人のこころを刺戟し、ひどい迫害をひきおこすほど私のことをわざわざ気にかけられた。しかも、これはすべての教派の間に共通したことであった。すなわち全部の教派が一しょになって私を迫害したのであった。

満十四才をすこしこえたようなひとりの少年であり、またその日の労働でようやくくらしを立てて行かねばならぬ運命におかれた一少年の私が、当時もっとも評判の教派のえらい方々の目をひくほどの、またいわば、もっともひどい迫害と悪口雑言をあびせようとする精神を彼らのこころのなかにひきおこすほどの重要な人物と思われようとはいかにも不思議であるということは、当時私を本気にふかく考えさせ、またそのときからたびたびふかく考えていることである。しかしふしぎであろうとなかろうと、事実は迫害と悪口雑言であった。そしてこのことはたびたび私自身にとってひじょうな悲しみのたねとなった。

しかしながら、これにもかかわらず私がさきに示現を受けたことは事実である。あのときから私は、パウロがアグリッパ王の前で弁明し、彼がさきに光を見声を聞いた示現の様子を話したとき、なお彼のことばを信じた者がほとんどなく、ある者は彼はうそを話していると言い、ほかの者は気ちがいであると言った。そして彼があざけり笑われ悪口雑言を受けたそのときと自分は大へん似た心の状態であったと思っている。しかしながらすべてこれらの反対も、パウロが示現を得たという現実をうちやぶらなかった。パウロはさきに示現を受けた。彼はこれを受けたという事実を身をもって知った。そして天下のあらゆる迫害もこれをかえることができなかった。人が死ぬまでかれを迫害しようとも彼は知っていた。彼はさいごの一息まで、彼が光を見、彼によびかける声をきいたこの二つの事実を知っているであろう。事実、全世界も彼のかんがえをかえ、信ずるところをかえさせることはできなかった。

私もまさにその通りであった。私はじっさいに光を見た。その光のただ中に二人のお方を見た。そしてその方々はしんじつ私におことばをかけたもうた。私が示現を受けたというためにくまれまた迫害せられても、なおそれは真実である。そして私がこのように言うために、人々が私を迫害しののしりいつわってあらゆる悪口をあびせている間に、私はじぶんの胸の中で語るようになった。「なぜほんとうのことを話すから私を迫害するのか。私はほんとうに示現を受けたのだ。私がどうして神にさからえようか。なぜ世の中の人は私がほんとうに見たものを見ないと言わせようと思うのか。私は示現を受けたのであるから、それが真実であることを身をもって知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれをうちけすことはできなかった。またあえてうちけそうともしなかった。私はすくなくとも、ほんとうにあったことをうちけすならば神の怒りを受けて罪の宣告を受けることを知っている」と（「タイムズ・エンド・シーズンズ誌」第三巻七百二十七頁、「ミレニヤル・スター誌」補遺第十四巻二頁、教会歴史第一巻三―八頁参照）。

註。日本語訳「ジョセフ・スミスの見神録」二―九頁参照のこと。

このときから千八百二十三年の九月二十一日まで、ジョセフは平常通り父と一しょに働きました。そしてこの間中、ジョセフはいろいろの教団の宗教人からあらゆる種類の反対と迫害とを受けましたけれども、何もひじょうに重要なことは起こりませんでした。とこ

ろで、九月二十一日の夜ジョセフはひじょうに真面目な瞑想的な精神状態で寝室へ退ぞきましたが、神の前における自分の立場をしめしたまえと、全能の神に熱心な祈りをささげておねがいをしました。そしてこのように祈りをささげているうちに次のような示現を受けました。

「かように私が神をよびもとめている間に、私は室内に一種の光があらわれるのを見つけた。その光はしだいに明るさをまして、ついに部屋じゅう真昼よりも明るくなった。そのとたんに、一人のお方が空中に立って私の寝台のかたわらにあらわれた。それは、そのお方の両足が床からはなれていたからである。

このお方は世にも妙なる白色のゆったりとした衣を着ておりたもうた。そしてその衣の白さと言えば、いかなるこの世の白さもくらべものにならない白さであった。また私はいかなるこの世のものもあれほどにすぐれて白くかがやいて見せることができたとは思えない。このお方の手も腕もあらわであって、衣のそでは手音のすこし上まで、またその足もあらわであって、衣のすそは足首のすこし上までしかなかった。その頭も首もあらわであって、ゆったりした衣だけを着ておられるのを見つけることができた。そして胸のあたりははだかって、ふところまで見えるほどであった。

この衣が世にも白かったのみならず、またこのお方の全身は筆にも口にもあらわせないほどのかがやきにみち、お顔はまことにいなづまのようにかがやいていた。室内はひじょうに明るかったが、このお方のからだのすぐまわりはとくべつによく光りかがやいていた。私がはじめてこのお方を仰ぎ見たときはおそれを感じたが、すぐにそのおそれはなくなった。このお方は私の名をよびたまい「われは神の御前より汝につかわされし者にしてわが名をモロナィと言い」「神は汝に一つの事を成しとげさせんとしておりたもう」、また「汝の名は、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民の中に善くも悪しくもおぼえられ、あらゆる人々の中に善くも悪しくも語らるべし」と言いたもうた。

またこのお方は私に、アメリカ大陸の先住民の記録とその起原とを金版にきざんだ一部の書物がうめられてあって、その中には古代の住民に救い主がお伝えになったままの完全な永遠の福音がのせてあると告げたもうた。

また銀のつるにはめた二個の宝石があって金版とともにうめてある。これらの宝石は一つの胸当につけてあって、いわゆる「ウリムとトミム」を成す。そしてこれらをもって使った者が、古代すなわち先の時代の「聖見者」となったのであり、かの書物を飜訳するために神はこの宝器をあらかじめそなえておきたもうたのである、と仰せになった。

これらのことを私に言ってから、旧約聖書にある予言を引用したまい、最初にマラキ書第三章の一部を、つぎにまた世の聖書にあるとはいささかおもむきを異にするが、おなじ予言の書の第四章すなわち最後の章を引用したまい、世の聖書にあるような第一節を引用するかわりに次のようにのたもうた。すなわち、

「見よ、炉のごとくに焼くる日きたらん。すべてたかぶる者と悪を行なう者はわらのごとくに燃えん。そはきたる者たち彼らを焼けばなり。万群の主は言う。彼らを焼きつくして根も枝ものこらざらしめん」と。またつぎのように第五節を引用したもうた。すなわち

「見よ、主の大いなるおそるべき日のきたる前に、予言者エライ

ジャの手によりてわれ神権を汝にあらわさん」と。また次の節を少々ことばをかえて「彼は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わしめん。もししからずば、主のきたるとき全地はことごとくあれすたれん」とのたもうた。

これらにつけくわえて、イザヤ書第十一章を引用してこの予言がまさに成就しようとしていることを言われ、なおまた使徒行伝第三章、二十二および二十三章をまったく世の新約聖書にある通りに引用したもうたすえ、ここに言う予言者とはキリストのことである。しかしながら「この予言者のことばをきかざる者は、その民の中より絶たるべし」というその日はまだきていないがそれはすぐにもくるのであると仰せになった。

さらにヨエル書第二章二十八節から末節までを引用して「このことはいまだ成就せずといえどもまもなくあるべきなり」と。さらにのべて「異邦人の時満つるは間近かなり」と言いたもうた。このほか多くのほかの聖句を引用しまた多くのときあかしをなしたもうたが、ここにその事をあげて言うことはできない。

またのたもうた「汝まえにわが語りたるかの金版を得たるあかつきには――かの金版を得べき日は、いまだ実現せざればかく言うなり――これらの版は何人にも示すべからず。かの「ウリムとトミム」の附属せる胸あてもまた然り。ただこれらを示すべしとわが命ずる者にのみ見すべし。もし余人に見するときは汝ほろぼさるべし」と。このお方が私にかの金版のことを話しておりたもううちに、私の心の中に示現がひらけてきて、金版のうめてある場所を見ることができた。しかもまことにはっきりと見ることができたから、そののちじっさいにその場へ行った時にはすぐにそれと知れた。

このお方との交通が終ってから、私は室内の光がさきほどから私と話をしておりたもうたお方のすぐ身のまわりへしだいに集まってゆきはじめるのを見た。しだいしだいに光はちぢみつづけてついに室内は再び暗くなってしまったが、そのお方の体のすぐまわりだけは光りかがやいていた。そのとたんに私は、あたかも一条の通路がとつぜん天にむかって開くと見たが、このお方はそれをのぼって行ってついにまったく姿が見えなくなり、室内はこの天来の光明があらわれる前の暗黒にかえっていた。

私はこの場のふしぎな有様を瞑想しつつ、またこの世の常でない使者によって私に告げられたことをひじょうにおどろきあやしんで横になっていたが、私が思いにしずんでひとり考えているさいちゅうに、とつぜんまた部屋の中が明るくなりだしたのを見つけた。そして言わば突如として、またおなじ天の使者が私の床のかたわらにおられたのである。

この使者は語りはじめて最初におとずれた時に語ったところとまったくおなじことを再び一言一句たがえずくりかえして告げ、そのあとで私に飢饉、戦争、疫病などによるはなはだしい荒廃をともなって、この地上にいまや来らんとする大いなるさばきについて告げ、このかなしむべきさばきが今の代において地上にくることを告げ、これらのことをのべおわると先の通りにして再び天に昇って行きたもうた。

いまはもう心に受けた印象があまりに深かったため、目はさえてねむれず、私はこれまでに見たりきいたりしたことにただもう驚ろきのあまり横になっていた。

（三九八頁に続く）

扶助協会レッスン

訪問教師のメッセージ
（千九百六十三年七月用）

「証詞」

目的―あかしが大切であること、あかしを強めたえずあかしを強くする方法とを理解すること。

証詞！あかしということばは、教会員の一人一人に何と強い衝撃と強い力と強い感じとを与えることばではありませんか。あかしということばは、教会員が日常使う語彙の一部であるふつうのことばでありますが、その意味は何でしょうか。あかしは英語で「テスティモニー」と言い「証言」という意味のラテン語から来たことばであります。私たちが福音を受け入れる方向へむかって進んでいるとき、私たちは「福音は真実である」という聖霊の証言をまず受けます。聖霊の証言は信仰よりも深いあるものであり、また知識よりもたしかなあるものであります。しかし、すでに改宗をした人々でもなお自分を支えてくれるあるもの、終りまでたえ忍び、すべての誠命を守り、あらゆることに忠実なしもべであることを得させてくれるあるものが必要であります。このあるものとは、すなわちあかし、まことに福音の中で私たちを発展させる力であるところのあかしであります。

あかしは力であります。黙示録の中に、天で大きな戦いが起こってミカエルとその御使いたちがサタンを地になげ落し、その使いたちも、もろともになげおとされたが、「兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼らにうち勝った」としるしてあります。

神の忠実な息子や娘たちは、サタンの悪計に対し彼らのあかしの力によってサタンを追いはらうことがいくぶんか出来たのでありました。またこれまで、まことに教会の力と安定度とは個々の会員のあかしの強さにかかっていると言われています。これが、一人一人の末日聖徒にとってあかしがそんなに大切なわけであります。もしあかしがなかったら、その兄弟姉妹は現在忠実な会員であるはずがないし、また将来も忠実な会員であるはずがないでありましょう。

私たちは、どうしたらこのあかしという貴いものを強め、またいつも失わずに持っておれるでしょうか。あかしはどのような地上の力も私たちに与えることのできないものであります。主は、私たちがある段階をたどって、信仰によりあかしをもちたいとねがわなければ、あかしを与えて下さいません。かってある友人が、自分のあかしをうたがってヒーバー・J・グラント大管長に手紙を書きました。これに対してグラント大管長は「私の忠告するのは、あなたはまずあかしを得るまで、あなたの時間をことごとく断食と祈りにささげよということです。私があなたの代わりに食べたり考えたりすることができないとおなじように、私はあなたのかわりにあかしをすることはできません……」という返事をしました。あかしがあなたにできるまでの主な段階は次のとおりであります。

一、信じたいというのぞみをもつこと。私たちは、自分のこころを主にむかって開かなくてはなりません。

二、けんそんであること。人は喜んで教えを受け入れなくてはなりません。

三、まことの信仰をあらわすこと。それにはいろいろの働らきをすること。

四、祈れ。祈りが何よりもまず大切であります。サタンは、最も弱い聖徒でも祈っているのを見るとふるえます。

五、福音の勉強をすること。事物について何かを知らなければ、その事物の本当のことを知ることはできません。

六、福音の実践をせよ。主は、神のみこころを行なえと勧告なさいました。そして、神のみこころを行なうときにそれが本当か本当でないかがわかると約束なさいました。

私たちがたえず自分のあかしを強くして行くには、これとおなじ段階に従うことが必要であります。あかしは固定したものではありません。あかしは生きものです。それでありますからいろいろ

の変化を与えて常に強くしておかなくてはいけません。

私たちがこの努力をするならば、霊に関することに導きとめぐみを与えたもう聖霊が、生き生きとした力に満ちた賜をつけ加えて下さいます。いまアルヴィン・R・ダイヤ伝道部長のことばを引きますと「ジョセフ・スミスは『予言者の塾』で教えたレッスンの中で、信仰だけでは、人は人生のあらゆる試れんと難問とをのりこえて行くことはできない。人は、自分のしていることが正しくて主を喜ばせているというあかしをもっていなくてはならないと説いた」。

このまったく貴いあかしは聖霊によって来るものであって、このあかしだけが人々を終わりまでたえ忍ばしめるものであります。これがまた、一人一人の末日聖徒があかしを得るように努力せねばならないもう一つの理由であります。

もしも私たちに、福音は私たちの生活のうちで最も大切な部分であるというあかしがないならば、私たちはほかの人々に霊の自覚を起こさせる助けとなるために必要な力がないでありましょう。しかしながら、もしも私たちにこの偉大な確信があるなら、どのようなぎせいも、どのような艱難も、またどのような妨害も恐れも、否あらゆるものも私たちのもっているものをほかの人々にわけ与えることをさまたげる力はないでしょう。

私たちのあかしは、ほかの人たちを改宗させる際に、私たちのもっている最も強力な道具であります。何ものも感動を与えることができなかったときに、けんそんなあかしの力で多くの人のこころが動かされました。断乎としたあかしの力の前には何ものも否定することができません。それは、どんな種類の教授よりも一層力強く感じます。人が単に「私はこれが本当であると知っています」と言うとき、疑問や反対や疑いの余地はほとんどありません。

教義は立場を人にわからせるでしょうが、人を改宗させることはできません。しかし、あかしは人を改宗させることができます。あなたのあかしから来るおだやかなそして静かな断言は、ほかの人々に福音の美しさと、その人生における重要性とをさとらせる助けとなる決定的の要素であります。あなたのきっぱりした固いあかしは、ほかの人々が固いあかしをつくる強い基になるのであります。

（三九六頁より続き）

しかし、また私の床のかたわらにおなじ使者を見、その使者がまえの通りにこのおなじことを私に一々くりかえしてお話しになるのをきいた時の私のおどろきはいかばかりであったか（「タイムズ・エンド・シーズンズ誌」第三巻七二九頁、「ミレニヤル・スター誌」補遺第十四巻四頁、教会歴史第一巻十一―十四頁参照）。

註。日本語訳「ジョセフ・スミスの見神録」十一―十四頁参照のこと。

この天の使者が二度目に天に昇って行きたもうたとき、ジョセフはただもう驚ろきのあまり為すところを知りませんでしたが、それでもしばし言いきかされたことをこころに深く考えていました。ところが、この天の使者は三度目にジョセフにあらわれ、前に言った通りのことをまたくり返してお言いになりました。そして警告と指示のことばを少々つけ加えて、お前はむさぼりのこころを起こしてはならない、あの金版は金をもうける考えで世に出してはならないあの金版はそういう目的ではなくて、この世から長い間失われている光と英知とを世に出すはずのものである。またあの金版を手に入れに行くときには用心をして行け、さもないとお前のこころは暗黒に満たされるぞとお言いになり、それからお前の見たり聞いたりしたことをみな父親に話せとお命じになりました。

JUNE 27

David put off the armor that Saul offered him and he started toward the river. He selected five *smooth stones* and put them in his shepard's bag and with his *sling* in hand, David moved into the valley to meet Goliath. The gient *spoke* loudly, "Am, I a dog?" Then Goliath told David how he would destroy him and feed his flesh to the fowls of the air and the beasts of the field. But David was not impressed, for with God's help he *knew* that he would *conquor.* And he did.

This is the story that has been told through the years and centuries. The faith of David had the vigor of a boy looking ahead at life, and of a man looking ahead at problems. It is the kind of *faith* that *made* it possible for him *to become* one of the greatest Kings of Israel and of the world. Reading the story again has brought me new aith and new, desire. The same Kind of faith that I should desire my sons and *daughters to acquire* and keep.

UERBS	*WORDS*		*PEOPLE - NAMES*
to fell	assignment	youngest	ISRAEL
to volunteer	armor	smooth stones	GOLIATHOFGATH
to come out	camp	sling	KING SAUL
to speak (spoke)	middlefinger	faith	DAVID
to conquor	champion	daughters	SAMUEL
to know (knew)	helmet		BIBLE
to make (made)	shoulders		ELAH
to become	shield		OWEN
to acquire	spear		
	challenge		
	handsome		
	sheep		

Seito No, Michi
English Plan - JUNE
The Story
David's Finest Hour - Wendell J. Ashton

JUNE 6

Our ten yer old son, Owen had an *assignment to tell* the story of David and Goliath. So, I *volunteered* to help him. We turned to the *Bible,* the 17th chapter of samuel, where our story begins in the valley called *Elah.* The philistines stood on the slopes of one mountain. Across the valley, on another mountainside, were the armies of Isreal.

From out of the philistines *camp,* came into the valley their *champion :* Goliath of Gath. Samuel says he was six cubits and a span tall. "How big is that ? " Owen wondered. we pondered. A cubit was the distance from the *middle finger* to the elbow - 18 to 21 inches. That would make Goliath about ten feet tall. Samuel says Goliath wore a *helmet* of brass. He also wore a coat of mail. The coat was as heavy as 5,000 shekles of brass. How heavy was that? A shekle was about half an ounce. we figured with a pencil. "That would make the weight of his coat 160 pounds," I said.

JUNE 13

Goliath was big and he was also strong. Goliath was well protected, he wore armor of brass over his legs, from his feet to his knees. Besides big coat of mail, he wore a "target of brass between his *shoulders.* "A target was a small shield. And besides this a man with a big *shield* went before him. Goliath carried a mighty *spear,* which Samuel says had an iron hear weighting 600 shekels. "That is nearly 20 pounds, as heavy as this typewriter." And every morning and evening for 40 days Goliath called his *challenge.*

JUNE 20

Three eldest of the eight sons of Jesse were with the army of Isreal. Jesse's *youngest* son, David, watched his father's sheep at Bethlehem. He was a *handsome* boy and as a harpist he had played for Saul the King of Isreal. His father asked him to take food to his brothers in the army. As he was chatting with them, Goliath *came out* with his challenge and David saw the warriors of Isreal flee in fright before him. But David was not frightened of Goliath and accepted his challenge. David's eldest brother was upset and asked David why he had come to tue battlefield, he also wanted to know who was looking after their father's sheep. But David's word reached King Saul, who asked for the young harpist to come to him. Saul reminder David that he would be a youth against a mighty man. But David was unshaken. The Lord had helped him while with the *sheep,* and he knew that he would be with him now. There was a vibrant vigor about his faith. something fresh that had come down from out of Bethlehem's hills.

members of the class to participate as is possible (as they are reading write some of the difficult words for them to pronounce on the board and use them for practive after). Much of the class time should be spent on the story for sentence construction and pronounciation practice.

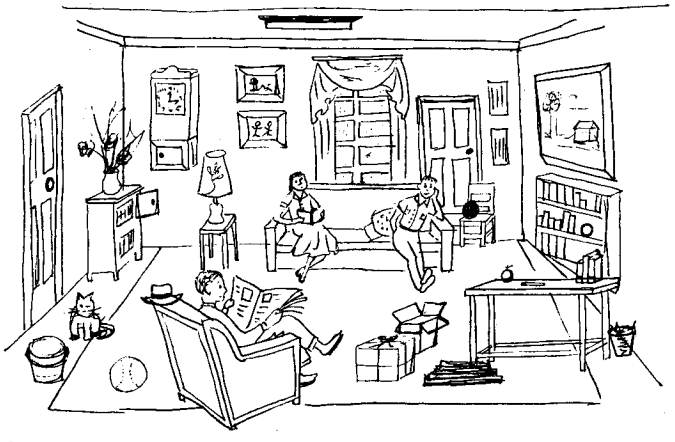
Ⅲ. Select various sectious of the story for dictation, following the same proceedure of correcting their errors at the end.

Ⅳ. Go back to the large picture used last week and stimulate the class to ask questions among themselves and to utilize the picture and the study words.

Ⅵ. Read the entire story for them just before the class ends, with emphasis on such words as FAITH,

Ⅶ. TONGUE TWISTER - Red rubber baby buggy bumpers.
Proper cup of cocoa in a proper copper cocoa cup.

4. Is there a lamp on the table?
5. How many pictures are there in the room?
6. What is on top of the radio?
7. What does the box have in it?
8. What colour is the room?
9. Who is sitting on the couch?
10. How many animals are there in the room?



WORDS

1. man	6. wall	11. table	16. ceiling
2. wife	7. radio	12. pictures	17. animals
3. son	8. flowers	13. sky	18. reading
4. girl	9. books	14. carpet	29. family
5. paper	10. lamp	15. couch	20. floor

VII. Return to the story for reading and practice.

VIII. TONGUE TWISTER

QUESTION: How much wood could a wood chuck chuck, if a wood chuck could chuck wood?

ANSWER: A wood chuck could chuck as much wood as a wood chuck could chuck wood.

JUNE 27

I. Request the sentences from the students that were to have prepared from the scrambles story sentences. If they do not have them, go back to last weeks exercise sentences and have them try them again.

II. Read Only the June 27th section of the story for the class, then have them read the entire story for you, asking as many of the

A

2. ELDEST
BROTHER
DAVIDS
UPSET
WAS

3. SELECTED
HE
SMOOTH
STONES
FIUE

4. WITH
A
PENCIL
WE
FIGURED

6. IS
THIS
STORY
THE
THAT
BEEN
HAS
THROUGH

TOLD
YEAR
AND
CENTURIES
THE

7. THE
UALLEY
ACROSS
ANOTHER
OR
MOUNTAINSIDE
OF ISRAEL
ARMIES
THE
WERE

8. GOLIATH
MAKE
ABOUT
WOULD
THAT
TALL
TEN
FEET

GOLIATH
OF

10. GOLIATH
TOLD
DAVID
THEN
WOULD
HE
HIM
DESTROY

11. TO HELP
HIM
SO
VOLUNTEERED
I

12. THE BROUGHT
STORY
AGAIN NEW
HAS DESIRE
READING AND
ME
NEW
FAITH

Write a few scrambled sentences from the story on the board, requesting that they are prepared for next week.

Ⅵ. Below is a large picture containing a number of items that can be talked about with the class. Draw some of the items in the room on the board and ask them to find them in the room, then ask them to draw someting that is in the room and have a class-mate find it. List words about the room and its contents on the board for the class to form sentences from, call on everyone in the class to participate.

1. How many people are there in the room?
2. Who is playing the piano?
3. What is the Father doing?

3. What is the man reading?
4. What is the man learning about?
5. How old is the man?
6. Where is that person going?
7. Who is singing the song?
8. Who is reading the book?

Ⅲ. Who and the Present Tense with ING

A. Repeat these examples.

S	ACTION VERB BE	-ING	COMPLIMENT
Who	is	answering	the telephone?
Elaine	is	speaking	on the telephone.
Who	's	writing	the letter?
My sister	's	writing	the letter.

B. When the subject of a sentence is *WHO* the word order is the same as in the answer; SUBJECT, VERB and COMPLIMENT.

C. When *Who* is the subject of a question, the verb is always in the third person singular. However, the answer may be in the singular or the plural, in the first, second or third person. If it is in the third person, the subject must be a noun, and not a prounoun.

EXERCISE: Have the class make questions with WHO, using the different verbs in the present tense with ING. Use the following words as compliments. Have the class ask one another the questions and answer them.

EXAMPLE: the book What person is reading that book?
Mr. Smith is reading that book.

1. the lamp
2. the lesson
3. the book
4. the road
5. the water
6. the teacher
7. the bus
8. the church
9. the letters
10. the table
11. the army
12. the story
13. the man
14. my father

Ⅳ. The following are sentences taken from the story, assign to the class members and give them 5 minutes to make a correct sentence from their word list.

1. TARGET
SMALL
WAS
A
SHIELD

5. WAS
UNSHAKEN
BUT
PAUID

9. PAUID
BUT
WAS
FRIGNTENED
NOT

6. (COME)_____your parents_____to church with you next Sunday?
7. (SPEAK)_____you_____to me?
8. (TALK) Who_____ _____on the telephone?
9. (BEGIN) What time_____the play_____tonight?
10. (RIDE) Which train_____you_____home tonight?
11. (READ)_____she_____the newspaper everyday?
12. (WRITE) To whom_____you_____that letter?
13. (PRACTICE) When_____you_____your quitar?
14. (SING)_____those people_____the right song?
15. (DO) What_____you_____next Thursday?

Ⅵ. Write these nine words on the board and ask the class to tell you what they mean, also ask them for a Japanese word.

1. husband	4. works	7. pays
2. home	5. present (a)	8. drives
3. Dad	6. special	9. suit

NEXT MONDAY is Father's Day in America. Explain why we celebrate Father's Day making sure that you use all of the aboue words in your explaination. Have the class take pencil and paper and write three of four sentences using at least 2 or 3 of the words from the above list and more if possible. Give them five minutes. Read and correct in class.

Ⅶ. Return to the story for the remainder of the class time, using the class as much as possible.

TONGUE TWISTER: Peter Piper picked a pick of pickle pepers.
A peck of pickled peppers peter Piper picked.
If Peter Piper picked of pickled peppers?
How many pickled peppers did Peter Piper pick?

JUNE 20

Ⅰ. Read the entire story for the class, then re-read this weeks section (JUNE 20). Choose members of the class to read short phrases and sentences from the story, discuss the story and answer questions concerning meaning, pronounciation and words.

Ⅱ. Turn back to the picture exercise in the June 6th section. Use these pictures, words and questions for conversation. Having the class ask one another questions about the story.

1. What song are the girls singing?
2. Who is walking to the station?

Yes, she plays the organ.
No, she isn't playing the organ.

1. When ING is used in the simple present tense it shows AN ACTION which is happening right now. It also, shows a special action that is NOT complete at the moment.
2. This simple present tense also expresses a general fact or a repeated action.
3. The verbs LIKE, KNOW, UNDERSTAND are used in the simple present tense. but NOT in the present tense with ING.

EXERCISE: Have the students supply the form of the verb needed. Them have them use different verbs to form sentences with ING. List a number of verbs on the board for them to work from.

EXAMPLE: John (LOOK) is looking for his book.
Is John (LOOK) looking for his book now?

1. Holly (GO) to the store everyday.
   _____Holly (GO) to the store now?
2. He (SPEAK) English well.
   _____Larry (SPEAK) English now?
3. The neighbor (PLAY) golf everyday.
   _____He (PLAY) golf today also?
4. Does Joan often (ASK) many questions?
   _____Joan_____always (ASK) questions.
5. Our teacher always (PRONOUNCE) the new words for us.
   _____the teacher (PRONOUNCE) the words now?

VERBS FOR SENTENCES

1. cry	5. buy	9. pull	13. organize
2. sit	6. do	10. rain	14. follow
3. depart	7. worship	11. catch	15. write
4. sing	8. have	12. work	16. copy

V. 1. First read each of these questions for the class using the correct form of the verb.
2. Then have the class go back over them and give you the correct form, also, have each question answerd by a member of the class.

1. (GO) _____Mr. Day_____to work today?
2. (DO) What_____you_____this Sunday?
3. (PLAY)_____Elaine_____the piano well?
4. (WALK) Who_____ _____outside of the house now?
5. (HAVE) What time_____he usually_____dinner?

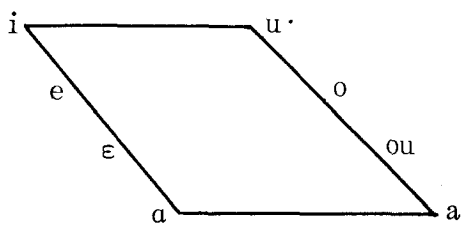
3. reading - read
   looking - look
   learning - learn
   studying - study

WHAT is she (he) doing? where is he going?
What are they doing? what will she do there?

V. Return to the story, read the first section again, drawing from the class for participation. Selecting some of the underlined words for sentence construction. The following are some tongue twisters for interest.
   1. Blue broad loomed rugs.
   2. She picked sea shells by the sea shore.

June 13

I. Refer to the past Seito No Michi for review of the vowel and consonate sounds for pronounciation (JANUARY 1) Ask the members of the class to give you words for the sounds, then have them construct sentences from these words. Write their sentences on the board so they can see them, correct any mistakes.



i - it, hit
e - pen, red
E - pair, care
a - night, eye
u - foot, cook
o - cold, sold
ou - top, flop
a - far, car

II. Read the first two sections of the story for the class. and re - read the June 12 section. Answer any questions about pronunciation and meaning.

III. Have the students take pencil and paper and copy as you dictate (slowly) the entire weeks section of the story to them. Select two or thee of the papers for correction, or have several students read a sentence from their paper.

IV. Last week we studied how to use the ING verb (past participle), this week we are studying about the simple PRESENT TENSE with the PAST PARTICIPLE ING.
   EXAMPLE: Does Carol play the organ?
   Is she playing it now?

1. The ladies_____ _____the large dinner.
2. They_____all_____the floor.
3. Miss Ellis_____ _____to America next month.
4. The Birds_____flying_____.
5. Those men are_____&_____.
6. It_____raining_____.
7. Who_____going_____in the morning.
8. Those men and women_____ _____ _____.

Ⅲ. Below is a list of several words and verbs to assign to various class members from which make sentences. Then have then ask sentences of one another using these words. Below are also a few sample questions or which they must suplly THE subject. Have a few write their sentences on the board, leaving a word out and asking a classmate to supply the word.

WORDS		VERBS	
L. assignment	8 youngest	1 to tell	8 to challenge
2 camp	9 handsome	2 to volunteer	9 to conquor
3 champion	10 sheep	3 to come out	10 to come down
4 helmet	11 story	4 to write	11 to dance
5 shoulders	12 smooth stones	5 to go	12 to know
6 shield	13 faith	6 to make	13 to speak
7 fowl	14 daughter	7 to acquire	14 to want

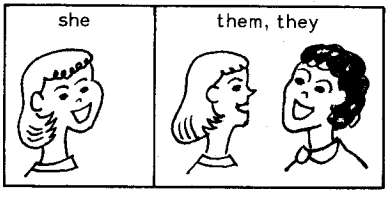
SENTENCE PHRASES

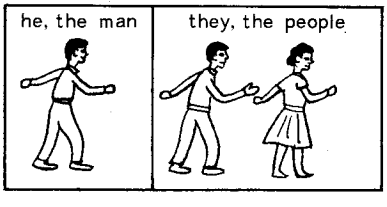
1. _____going tomorrow?
2. _____singing along?
3. Are_____walking home tonight?
4. _____studying in school?
5. _____to buy at the store?
6. _____are you caring in your hand?

Ⅳ. Below are several pictures with words listed by them, various students should be selected to talk about them using some of the words listed as helpers.

1. laughing - laugh
   talking - talk
   singing - sing
   speaking - speak

2. running - run
   going - go
   moving - move
   walking - walk





SEITO NO MICHI

ENGLISH PLAN - JUNE

JUNE 6

I. Read the entire story for the class and re-read the section for JUNE 6. Ask members of the class to read various sentences and to pronounce various words.

II. ING is the present participle and the 'helping verb' BE.

A. ING is the present tense and tells of an action that is happening at the present time

B. To make the PRESENT PARTICIPLE with ING. To form the present participle, you put ING on the end of the action verb.

GO GO - ING GOING

C. If the action verb ends in E, you leave off the E and add ING

LEAVE LEAV (E) ING LEAVING

D. To make a correct past participle sentence, we use the correct form of the 'helping verb' (auxillary verb) BE and then add the present participle of the action verb.

The present participle will express the action of the sentence

SUBJECT	HELPING (BE)	PRESENT PART. (ING)	COMPLIMENT
I	am	sing - ing	a song
No, they	're	not go - ing	to the store

EXERCISE: Use the correct form of BE in these following sentences. PRACTICE using contractions.

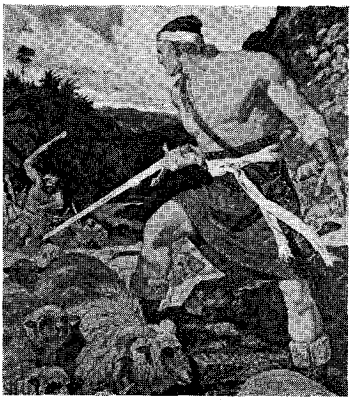
EXAMPLE: They_____Japanese people. They're Japanese people.

1. He_____going to Hokkaido this weekend.
2. The people_____ _____songs.
3. They_____playing baseball tonight.
4. The horses_____such large animals.
5. we_____very hungry this evening.
6. The boy_____ _____to his father.
7. That woman_____talking to Mr. Smith.
8. Who_____ _____in the store window.

Complete these questions with an ING word (present participle), a compliment or a form of TO BE.

EXAMPLE: Miss Smith is_____ _____.

MISS SMITH IS TEACHING THE CLASS.



今月の表紙

アンモン，勇敢に王の羊の群を護る。

アルマ書，第17章　19節～39節

アルマ書，第21章　23節

月刊「聖徒の道」第七巻第六号
一九六三年六月一日発行
実価　一カ年　九一二円〒共
半カ年　四五六円〒共
一部　七十円
編集兼発行人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

編集後記

▲雨が毎日のように降り続く「つゆ」はまた病気の多い季節でもあるらしい。編集部近辺でも多くの人々が入院し療養を続けている。くれぐれも健康に気をつけたいものである。それを聞くにつけても、健康な体をいただいていることを感謝したい。

▲そのせいか、原稿も〆切日後に来るのが多い。原稿がおそいのは本の発行がおくれる大きな原因だが、本当に毎月ひや汗をかきながらの編集だ。

▲英会話に使用するためでもあろう、支部によっては本が不足している所もあるという。本当にありがたいことで、英会話に参加した人が一人でもこの本から改宗の動機をつかんでくれたらと願うしだいだ。

▲それにつけても解らないのは、本部に送られてくる金額と、支部で売れている状態とどうも一致しない点があるということだ。このことについて近々、本部から支部あてに強い指示があるはずである。

▲新潟支部の西山姉妹のお宅、本当にお気の毒と思います。一日も早く立ちなおられるように私たちも協力してあげたいものです。

▲投稿原稿について、最近原稿用紙を使用せず、便セン等に走り書きしてあるのが目立ってきました。整理の都合上載せられないこともあります。特に支部だよりに多いようです。完全原稿といかなくても、一応原稿用紙に書いてから送られますようにお願いします。

▲「ガイド」執筆者も、〆切日に間に合わせてください。

▲長老定員会の原稿は、今月編集部の都合により休載させていただきます。

（K）

聖徒の道

1958年3月17日
第3種郵便物認可第7巻第6号
振替口座 東京76226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二—一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二—八二二四）

札幌　市北二条西二四丁目

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電話（二—八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（五—〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二—四〇一〇・四〇八—三〇〇四）

東京北　東京都豊島区高田本町二ノ一四八七
集会場　日曜学校　武蔵野ドレメ
MIA　徳川生物研究所
東京都江戸川区小岩町六—七八〇
電話（六五七—五二二三）

東京東　東京都大田区南千束町二四九
電話（七八二—六一三一）

東京南　東京都港区青山北町六ノ三四

東京西　東京都港区青山北町六ノ三四

山形　山形市八日市八五〇

横浜　横浜市港北区篠原町二九
（電話四九—八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六五一—八三二七）

福岡　福岡市東薬院二ノ四〇

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
（電話三—六一二五）

金沢　金沢市成瀬町二ノ四　野田方
集会場　農業センター

京都　京都市左京区松ケ崎桜木町一四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三—四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五—〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二—一二三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六—二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

沖縄地方部

普天間　沖縄宣野湾村野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六—三四（四〇二—四〇一〇）